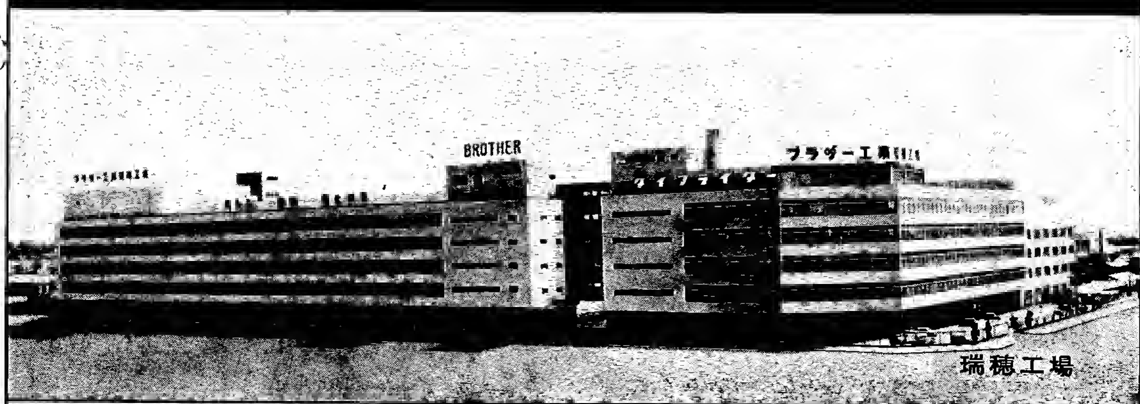
「ミシンメーカー」から
「各種機器の総合メーカー」へ



瑞穂工場

ブラザーはミシンの技術を母胎に新製品の開発に努め、多角化を進めてまいりました。

現在ブラザーには、ミシン、編機、事務機、家庭電器、工作機、楽器の6つの部門がありますが、いずれもその優れた品質で、世界の市場をリードしております。

ブラザーはこの成果に甘んじることなく、さらに自社技術の開発と取り組み、各種機器の総合メーカーとして一段と飛躍すべく胎動を始めております。

BROTHER
ブラザー



ブラザー工業株式会社
本社 名古屋市瑞穂区堀田通9の35
TEL(811)2511 大代表

〝ミュンヘン〟への道

オリンピックにおける球技が８ケ国になるかは、ＩＯＣ・ＩＨＦ・主管国であるドイツ体協、ドイツハンドボール協会などの意見が種々に伝えられ、現在どうなるのか確定的ではない。

ミュンヘン・オリンピックでハンドボールが行なわれることは確実だというだけで気のもめる話だ。

云いふるされていることであろうが、このチャンスをつかむことは日本のハンドボール界にとってはもとより、世界のハンドボール界にとっても、必要なことは云うまでもあるまい。

いかなる意味でチャンスといわれているか、これは各人各人ただばくぜんとチャンスといっているので、それぞれの思惑はかなり異っている。

ある人はオリンピックに出るということそれだけで、チャンスといっていると思われるし、ある人はオリンピックに出場しジャーナリズムにのることによって普及が推進すると考えるであろうし、まさに各人各様の受け取りかたをしている。

現在のハンドボール界の傾向はとにかく、オリンピックに参加するということが目的なのであって、これをどう生かすかというところには、まだ考えがついていない。もっとも参加するというだけで、多くの難関をかかえているのであるから、とてもそこまで考えが進んでいないのも無理からぬ話なのかもしれない。もちろん、強力な選手団を作りあげ、オリンピックに参加し好成績を挙げることが出発点になるのだから、それは非常に重要なことであるが、当面ハンドボール界にとって、何が一番目的なのかをしっかりと見つめておくことが必要であろう。

オリンピックをキッカケにして、発展躍進しようとするのがあくまでも目的でなければならないと思う。オリンピックというのは、一つの完結した目的であるのではなく、より大きな目的のための一つのキッカケもしくは手段であるのだ。オリンピックを一つの自己完結的な目的としない限り、あくまでも、十年後、あるいは五十年後のハンドボール界が日本において、否、世界において、どのようにあるべきなのかのヴィジョンをもって、そのヴィジョンに達つするためのまず第一の手掛りとして、今回のオリンピックを考えることがハンドボール界にとって必要なことである。（藤本）

時　評

○……秋の国体（長崎）と本格的インドアシーズンに開かれる二つの全国大会をめぐっていくつかの新しい問題がおきている。

国体での問題とは、いつものことがら出場選手の資格についてだ。

今年も予選段階でいくつかのトラブルが起きているが、いずれも前年度出場県とのからみである。

得点（都県別対抗）かせぎのため県から県を渡り歩くいわゆるジプシー選手を防ぐために前年の出場県が重視されているわけだが、前年に県予選で敗退した者にもこの規制が適用されるかどうかは微妙なところだ。

要綱では地区予選会まで含むとされているが字句だけから推せば地区とはブロックまでで県までは含まないという解釈が充分に成り立つ。

しかし、規程の思想からすれば県大会まで含めるべきであろう。日本協会は早い時期にこの点への見解を示し、来年度のトラブルを未然に防いで欲しい。

○……全日本学生（11月・東京駒沢）は、参加校が男子45、女子9と増え主管の関東学連は今さら大会期間を延ばすわけにもいかず男女とも一日づつダブルヘッダーを組んでなんとか切り抜けることになった。学園紛争がなく開催期がもう少し早ければ男子は50校を越しただろうといわれる。予選制を布いて32校におさえるか新しい大会方式を生み出すか、これまた早急に来年への対策を公けにすることをせまられている。

○……12月の全日本選抜（東京）についてもくすぶりがあるようだ。参加チームを一気に4チームにしぼったことについては今のところ賛同者の方が多い。

問題は出場チームの選考基準があいまいな点である。

今年の場合、特別編成された選考委員会の案が常務理事会で修正されて決定したが、男子では実力重視か組織（選出母体）重視か争点になったと聞く。

一部にこの大会はハンドボールのPR的要素が強いのだから出場チームもバラエティに富んだ顔ぶれにしたらという意見があるようだが、競技のPRというならあくまで強者・精鋭でなくてはなるまい。執行部が〝地方不在〟〝現場不在〟といった声を気にしすぎて組織や加盟団体の顔色をうかがうような態度をとらぬようついでながらつけ加えておこう。（X）

「ハンドボール」11月号（第70号）目次

表紙写真・関東学生秋季リーグ日体大対中央大戦から（10月20日・駒沢屋内球技場）
撮影・山田真市

IHF、男子16ケ国を要望　女子を省いても

オリンピック球技参加国数問題

国際ハンドボール連盟（IHF）は、公報79号（10月号）の巻頭で「オリンピックに男子16チームの参加を主張」という論調を述べた。

これは今年の6月ワルシャワで開かれた国際オリンピック委員会（IOC）総会で、球技8ケ国案が決議されたことに対するIHFとしての初めての見解であり、「反対」の意思表示である。

IHF公報79号の全文は次のとおり。

×

IHFはワルシャワ決議後16チームのオリンピックハンドボール参加を主張

フットボール、ハンドボール、バスケットボール、バレボール、ホッケー、水球を代表する国際連盟はIOCが採用したワルシャワ決議に強硬に抗議した。

ワルシャワでの決議によれば前述の団体スポーツの参加国は8に減らされなければならない。新しいこの規定はすでにミュンヘンから有効化されている。

IHFは直ちにFIFA（国際サッカー連盟）と連絡した。FIFAはやはり満場一致でワルシャワ決議に対抗している。

IHFはIOCに次のような電報（要旨）を打った。

『参加国の数を減らすことを聞いて驚きに堪えず。かつローザンヌの国際スポーツ連盟（IF）とIOCの会合では、ミュンヘンでの減少の問題は全然示されなかった。

なおさら驚きの至りである。その上、ミュンヘンでIOCに提出された競技時間表（日程表のことか・編集部）及び参加に基く計画は何の反対もなくワルシャワで承諾された。IHFは更に本決議に関し非常な失望と関心を感じるとともにミュンヘンのオリンピック組織委員会の同意のもとにこの最近の決議と先に決定した16ケ国を認めることにつき再審査することをIOCへ要求する。

IHFとしては男子チームの参加数16を減らすよりも、むしろ女子を省く方がよい』

IOCの技術委員長A・タカルはミュンヘンの女子8、男子8チームを許可する決議をIHFに正式に通知して来た。この正式通知後IHFは再び次のような抗議電報を打って反対の意を示した。

『IHFはIOCがワルシャワ決議の取り消しと変更をすることを希望する。』

その時以来、関係スポーツ連盟代表者の会合はIOC会長A・ブランデージの議長の下に開催された。出席の全代表者は再び抗議を提出した。IHF副会長のP・ハイバーグ（スウェーデン）は世界のハンドボール人を代表してこの会合に出席。A・ブランデージ会長は、これらの問題は10月のドブロブニク（ユーゴ）で行はれるIOC会合に於いて再び討議し、かつライプチヒにおけるIOC会合に通知すると各連盟に確約している。

現在の状態は以上のとおりである。IHFはこれまでこれ以上のことは出来なかったが、オリンピックにおけるハンドボール競技は16の男子チームで行われるか、あるいは男8、女8で進めなければならないかは、10月のドブロニクの会合で決まるだろう。ドブロニクに於ける決定はIHFと他のIFが好むと好まざるにかかわらず最終的なものとなろう。

しかし、フットボールだけ例外といったことは受け入れられない。

ドブロニク決議はすべての団体スポーツに対し公平・有効でなければいけないものである。

強化対策にも影響

本誌でも「オリンピック参加国数」については各関係筋からの情報を集めてそのつど報道して来たが、かんじんのIHFの態度をつかむことができなかった。今回、公報の到着で初めてその見解を知ることができたのだが、

① IHFも、16を8にする変更（ワルシャワ決議）に対し、まったく知らされず、抜き打ち的なIOCの通達にはげしい抵抗を示している。

② IHFとしては男子8、女子8とするより、女子を省いて男子16とすることを強く要望している

の2点が判った。

①は予想されたことだが②は大いに注目される。

今夏、欧州遠征した全日本の村田弘監督は『西ドイツでは女子の実施をあまり好んでいない』という情報をもたらしていたし、IHFのいわゆる〝西側〟が女子の採用について積極的でないという空気は馬場太郎氏（前日本協会副会長、今春渡欧）からも伝えられていた。

しかし、ソビエトら〝東側〟による男女実施の意向は極めて強いようであり「男女8」「男10、女6」といった情報もかなり流れて来ていたものである。

何れにせよ、IOCは「男8、女8」案をドブロニクでも強く押し出すであろう。IHFその決定をのむか「男子単独（16）」をゆずらぬかはまったく予測がつかないが、長い論議となっていたこの問題もどうやら10月末に結着がつきそうだ。日本協会もそれによって強化方針が左右されるわけで、特に女子のオリンピック対策は「IOC、IHFの態度待ち」（村田強化対策委員長の話）だけにドブロニクの会議を大いに注目したい。

ポーランドトーナメントなどには不参加……全日本

日本協会は、ポーランドから来春1月末の「ポーランド国際トーナメント」、2月中旬にチェコから、それぞれ招待（いずれも男子）を受けたが、世界選手権直前のためいずれも参加しないことを決めた。

なお、チェコの女子1部リーグに加盟しているブラティスラバ・クラスナニイ・クラブから交流の希望が寄せられている。

全日本選抜（12月 東京）出場チーム決まる

日本協会はこのほど、12月19日から21日まで東京体育館で開く第16回全日本選抜選手権の出場チーム男女それぞれ4チームを次のように発表した。

▽男子
全立教（東京） **大崎電気工業**（埼玉） **日本体育大学**（東京） **全日本学生選手権優秀校**
全日本総合優勝　全日本総合2位　韓国遠征全日本学連代表　（11月30日に決定）

▽女子
大洋デパート（熊本） **大崎電気工業**（埼玉） **三菱鉛筆**（神奈川） **田村紡績**（三重）
全日本総合優勝　全日本総合2位　全日本総合選手権準決勝進出

年末のビッグエベントとして東都のスポーツファンの間に定着した感じの全日本選抜選手権について、昨年あたりからいっそう内容を充実するため「6チーム5日間リーグ」「4チーム3日間リーグ」などの意見が非公式ながら関係者の間で出されていた。

今年の大会は、いちおう前年どおりという意向があったようだが9月21日の全国理事会で「4チーム3日間リーグ」という案に決定をみた。

年末における観客動員などから推して期間の短縮による効果は大いにあると思はれ、第1日から即優勝へつながる4強のぶつかりあいはこの大会の新しい魅力となろう。

問題は出場チームの選考にあった。特に男子は、8チーム制の昨年でも3時間近い論議を4回もくり返すほど。4チームにしぼられた今年はいっそうの難行が予想された。

はたして出場チーム選考委員会（若崎技術部長ら7人）案が提出された9月28日の常務理事会では選考の基本方針をめぐって論争となり、結局、全日本総合の上位2者（全立教・大崎電気）と全日本教職員選手権優勝の東京教員ク、韓国遠征校学連選考会1位の日体大という委員会案が修正され、東京教員クに代って11月26日から駒沢で開かれる第12回全日本学生選手権優勝校を加えることに落ちついた。

なお、同選手権で日体大あるいは立教大が優勝した場合は準優勝校、日体―立教の決勝となった場合は3位校へ出場権を与える。

これは学生界というトップゾーンを背景とした全日本学生選手権の実力を評価してのもの。

女子はいわゆる実業団4強を推す声が選考委員会、常務理事会ともに強く順当に決まったが、出場を辞退するチームがある場合は全日本学生選抜チームを出場させるという附加案が注目されよう。

全日本総合で田村紡を降した美和ク（東京）については資料不足ということで推せんが見送られた。

今回の選考が大会の約3ヶ月前に行はれたことに対し尚早説もあるが、荒川新体制の意向として、この大会の目標の一つに競技収入の獲得があり大会準備の万全を期すためには、この時期の決定はいたしかたない。

むしろ、日本協会にはめずらしい早手廻しの処理はその成果を期待してよいのではなかろうか。好試合の連続は必至だけに運営面での充実が注目される。

百二十チーム増 日本協会登録

日本協会は10月15日現在の全国登録チーム数を発表した。それによると総チーム数は一五六六（男一〇五九、女五〇六）。

昨年9月現在より百二十チームの増加を見ている。種別では高校（男女）が一〇九六と全体の七割を占め、教員チームが47都道府県協会のうち41協会で編成されたのも注目してよい。種別チーム数は次のとおり。

▽一般男子（含学生）三五七▽同女子（同）六九▽教員 四三▽高校男子 六五九▽同女子四三七

評議員の代理資格変更

日本協会では、規約第15条の2を次のように変更すると発表した。

『評議員は、副会長または副部長（高体連）あるいは各組織、各加盟団体の理事長またはこれにかわる者を代理出席せしめることができる。ただし、本会役員をこれにあてることは出来ない』

（注）この変更は、田村会長から提案され全国評議員の郵便投票（定数50）で決められたもの。

郵便投票は10月10日〆切で総投票数33、賛成32、反対1だった。

なお、規約第14条の1の七常務理事の定員数10名以内を、若干名と変更する事後承諾も郵便投票で承認（賛成32、反対1）された。

常務理事の担当決まる

日本協会では9月28日の常務理事会で常務理事増員とにもなう常務理事陣の新担務を次のように決めた。

これまで部長（各パート責任者）以外の常務理事は、無任所的立場をとっていたが、今回から全員を各部に配した点が注目される。

なお、総務部は総務・企画部と改組され事業、広報、登録一般事務などを統括する。（○印部長）

▽技術部　○若崎重富、田中秀夫
▽審判部　○安藤純光、山田　計
▽国際部　○宮崎慎六、入江暢一
▽財務部　○森岡毅雄、佐久間義
▽編集部　○藤本　強
▽総務・企画部　荒川清美（理事長兼務）　○杉山　茂
嶋田新太郎、渡辺一己
田中滋章

国体委員に荒川理事長

日本協会は新体制にともなう体協派遣役員などを次のように決めた。国体委員以外はいずれも留任。

▽体協評議員　田村　正衛（会長）
▽JOC委員　渡辺和美（副会長）
▽競技力向上委員　西　敏郎（副会長）
▽国体委員　荒川清美（理事長）

なお、西副会長療養中の代行は宮崎常務理事。またIHF関係担当は渡辺副会長。

“選抜”の検討が焦点

全日本選手権検討小委員会

【】全日本選手権各大会の再検討を行うための小委員会は、若崎技術部長を中心に調査を進めているがこのほど行った全国関係者へのアンケートではかなり多範囲な意見が寄せられ、この問題の難しさを教えている。

現行の大会のうち全日本総合、全日本選抜の2大会について回答の6割近くが「検討したほうがよい」としており両大会の存在については

全日本総合廃止　7％
全日本選抜廃止　37％
現状のまま（両大会併存）　40％
全日本選抜の方法を変える　5％
その他　11％

という数字がでている。

検討の焦点は全日本選抜にしぼられた感じで、同委でもこの大会をどうするかが最大課題だといっており、それによって全日本総合にも影響してくるとみられる。

例えば、全日本選抜を6月頃開いて、全日本総合を今まで全日本選抜の行われていた12月に廻す。それまでに加盟団体の全日本選手権(学生、実業団、教職員、高校)を終了するようにしておけば全日本総合は各層のチャンピオンチームを集めることができる。

2月に定着した感じの実業団選手権が小委員会の結論待ちという柔軟性のある態度なので、この案の実現性はないとはいえない。

もっとも、全日本総合を12月に開く是非が新たな問題となろうし会場を国体開催地の前年に廻るという内規も再検討されなければならない。

全日本選抜については学生、実業団、教員の各選抜による大会にしてはという意見も出ている。

なお、常務理事会では、小委員会の答申案が10月中にまとまらないような場合は、いかなる実施・変更も昭和46年度からということを申し合せている。

男子、ベスト8（前大会）でリーグ制……2月の全日本実業団

全日本実業団連盟は10月5日東京で理事会を開き、主に来年2月7日から5日間名古屋（愛知県体育館ほか）で行われる第10回全日本実業団選手権について協議した

その結果、同大会の男子は前大会（44年2月・横浜）のベストエイトによる準決勝（2組）・決勝リーグ制を採るという注目すべき決定をみた。ベストエイト以下及び新参加チームは別にトーナメントを組む。

このシステムは実業団男子のレベルアップを企るため採られたものだが、全国大会を実力による二つ以上のクラスに分けて行うのは球界でもはじめてのことである。

実連としては、次回以降もこの方法をつづけていくかどうかは未定だが、継続する場合は今年の大会のベストエイトの下位2チームとトーナメント戦の上位2チームを自動的に入れ替える。

前大会のベストエイトは大崎電気（埼玉）以下三景（東京）、常盤工業（岐阜）、住友化学菊本（愛媛）、富士製鉄名古屋（愛知）日進商会（神奈川）、千代田印刷機製造（千葉）、日本鋼管京浜（神奈川）の各チーム。

なお、女子はリーグ戦の予定。男女とも申しこみ〆切りは12月15日、組み合せ抽せんは12月20日。

自衛隊大会は日本協会主催

全日本実連では来年度以降の「全国自衛隊（選抜）大会」について協議したが、自衛隊連盟の結成は当分行わず、同大会は日本協会の主催によって開いていくことを日本協会へ要望することになった。

これは、自衛隊関係者からの意向を主にしてとりきめたもので、自衛隊側は来年6月19、20、21日東京駒沢（屋外）で第2回大会の開催を望んでいる。

なお、日本協会では技術部が自衛隊での普及を来年度の事業計画の一つにしており、技術部―自衛隊関係者―実連の慎重な打ち合せが必要のようだ。

全日本、関東学生と対戦

男子ナショナルチーム（世界選手権第3次候補）は11月15日午後5時から東京・早大記念会堂で関東学生選抜と2試合を行う。

関東学生選抜のメンバーは11月4日に決まるが秋季リーグの成績を中心に2チームが編成される。

NHKでTVスポーツ教室

NHKテレビスポーツ教室（教育テレビ毎週日曜・午前9時〜10時）は11月9、16日ハンドボールを採りあげる。

指導は村田弘選手強化対策委員長、実技は全日本男子、聞き手は田辺礼一アナウンサー。

日本ハンドボール協会公認
GOLD STAR
ゴールドスターハンドボールシューズ
岡山　釣鐘工業株式会社　東京

「世界選手権基金運動」新局面へ

日本協会では事業の国際化、拡大化による予算の増大にともなう財源（収入源）確保の一方法として今年の6月「世界選手権基金運動」（案）を提案し、全国関係者からその主旨への賛同を得たものの、その実施方法についてはいくつかの難点が指摘され進展をみせぬままになっていた。

しかし、協会財政の緊迫はかなり深刻なものとなり、森岡財務部長（常務理事）の見通しでは今年度はかなりの赤字予算となりそうで、改めて「世界選手権基金運動」の検討が必要となって来た。

このため、10月の月例常務理事会では「基金運動」を施行する方向へ進めることを確認、嶋田常務理事を委員長とする小委員会を編成し運動の具体化をはかることになった。

同委員会の初会合は10月23日日本協会で行はれ、6月の提案時点において、「主旨にはまったく異存はないが、徴収方法に研究の余地がある」とした多数の意見を参考とし、大会毎に選手一人々々から募金するという案を白紙にもどして、新たに「一般募金」「役員募金」の二つの柱を設けそれにそって徴収する方法をこうじることになった。「一般募金」は、年度登録時に各チームから徴収するもので、同委員会では高校チーム百円、その他のチーム二百円という額が示された。

また「役員募金」は、日本協会会長、副会長、全国評議員、日本協会役員、全国都道府県協会理事長、加盟団体理事長、全国都道府県協会及び加盟団体役員（理事）からそれぞれのランクに応じて金額を決め寄附をあおごうというものである。金額については全国評議員会または全国理事会の席上で協議されるが、このうち都道府県協会及び加盟団体役員（＝理事）については、それぞれ定数や構成面で事情が異るため、一協会（団体）単位の負担額を定めることになりそうだ。

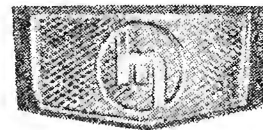
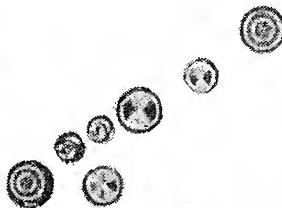
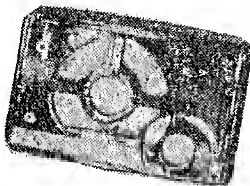
このほか、一口一万円の賛助寄附を実業団オーナー、一般OBなどから募ることとも申し合わされた

現在の日本協会財政を支えているのは登録金、用具検定料、体協からの補助金などだが、いずれも現状では目いっぱいの金額で大巾な増額は望めず、したがって増大する支出に比例した収入は他の方法に求めざるを得ない。

競技収入の増大や財源確保事業の着手なども構想されているようだが「世界選手権基金運動」もそうした苦しい情勢のなかで、世界選手権派遣費などの一部にでも充当させればということで考え出されたものであり、運動の主旨が理解され、一日も早く実施の軌道にのることが待望されている。

プラスチックの総合メーカー

メッキは金属だけでは……
……ありません！

精密金型設計・製作
マイクロプラスチック成型
プラスチックメッキ

株式会社 宗形製作所

本社 大阪府高槻市辻子241番地 TEL 高槻(0726) 75−5551
東北本社 福島県福島市清水町字中谷地48番地 TEL 福島(02452)3−2812・2911
宗形工業化学株式会社 大阪府高槻市辻子252番地の1 TEL 高槻(0726) 75−5767〜8
京都金型製作株式会社 京都市南区上鳥羽花名町19番地 TEL 京都(075)68−9701

臨時常務理事会議事録

9月28日（抜すい）

新常務理事陣による初会合。

一、日本協会規約第16条の3「会長、副会長は理事となる」という条文は検討の要があると思われるので評議員会に研究を要望する。

一、日本協会財政はかなり困窮して来ているので財務部を中心に会長、副会長理事長、総務企画部で対策をこうじたい。（田村会長）

一、クラブチームのための全国大会について検討する。（総務企画部）

一、全日本実連から「大会の協賛者にボール業者（社）や企業を依頼してよいものか」問い合わされたが、日本協会としては次のような見解をとる。

イ、協賛者にボール業者、企業を依頼し広告の協力などを受けるのはよいが、プログラムなどで主催・主管・後援などと並べてその社名・商品名を表記するのはいけない。

ロ、後援、協賛は公共的教育機関と報道関係団体に限ることを原則とする。

一、「旅費規程」の原案（改正案？）を早急に協議する。

一、全日本大会における大会役員の構成基本原則を検討する。（理事長）

月例常務理事会議事録

10月9日（抜すい）

一、ヨーロッパから帰国の渡辺副会長の報告によれば「バーマンIHF会長は、ミュンヘンオリンピックのハンドボールは男子16ケ国で行うことを強く希望している」とのことである。（田村会長）

一、全国高体連ハンドボール部昭和44年度優秀選手案を了解。

一、第10回全日本実業団選手権要項の承認

一、世界選手権基金連動を再検討するための小委員会を編成する。委員長は嶋田常務理事とし委員は次の五常務理事。

荒川、山田、入江、田中滋、杉山

一、体協「日本アマチュアスポーツ年鑑」委員に藤本常務理事を決定。

一、全国評議員会、理事会の招集

全国クラブ大会私案

杉山　茂（総務企画担当常務理事）

はじめにおことわりしておくが拙稿はあくまで私案である。

日本協会諸賢はもとより、総務企画スタッフ各位にもまだはかってはいない。

来年度から実施できるわけでもないが多くの意見・批判が寄せられることを期待して発表するものだ。

× × ×

クラブの全国大会を開くべきだ。開く時期に来ている。

クラブは日本協会（球界）にとって実に貴重な「人的資源」であり「財源」でもある。私案を掲げよう。

一、全国大会は時期尚早。まず「クラブ王座決定戦」を。

下段に掲げた「大会段階案」を見ていただこう。結論からいうならクラブの大会は1泊2日が限度、したがって多数による数日間にわたる大会は難しいとみたのが段階制の発想点である。

○県別選手権を47都道府県で5月31日までに終了させ代表チームを決める。

○ブロック選手権は北海道から九州まで6月中に行うことを原則とする。ブロック選手権への各県から何チームの代表を送るかはブロックの事情にまかせる。

○インター・ブロックは言葉を変えれば東日本選手権と西日本選手権である。東は北海道、東北、関東、北信越、東海。西は近畿、中国、四国、九州、（沖縄）とする。

代表は各ブロックから2チームづつ送り7月中に終了する。

○東日本、西日本の代表（優勝チーム）によって王座決定戦を行う

期日と場所はあらかじめ決めず、代表チームのどちらかのホームコート（そのチームの属する地域の体育館使用が理想）で行う。なお、仮に北海道代表と九州代表の争覇になった場合、東京で対戦することも承認してよいだろう。期日を？としたのは、代表両チームによって話しあうという新しい考えを盛ってみたいためである。

二、段階により色別の優勝旗を

社会人野球の祭典都市対抗の優勝チームへ黒獅子旗、地域予選優勝チームへ白獅子旗、県予選優勝チームへ青獅子旗が贈られるのは有名。そこで、この大会もブロック選手権、インターブロック、王座とこの3段階の勝者に同じデザインながら色の異った優勝旗を送ったらどうだろう。調達は日本協会。初年度に経費がかかるだけだ。最強チームは三本の優勝旗を掌中にするわけだ。

なおチャンピオン（王座優勝）チームは次年度はインターブロックから出場する特典を与えたい。

三、王座決定戦の経費

体育館（あるいはコート）使用料、審判派遣費など大会基礎経費は日本協会負担とする。

四、選手の資格とチーム登録

男女とも選手の資格は全日本学連、全日本実連登録選手及び高校生以外ならかまわない。ただし、一人一チームからのみ出場できる（例えば県別選手権にAクラブから出て、ブロック選手権にはBクラブから出ることは許さない）

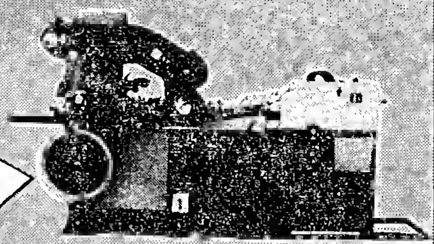
チーム登録は、日本協会登録細則のうち、一般男女を実業団・学生・クラブに分けることによって処理する。女子クラブに現役大学生の出場は認めない。（国体は当分の間、現行の"3名"をつづけるようだ）

×

この案を私は11月又は12月の常務理事会に出してみるつもりだ。読者諸兄姉のお考えを編集部宛送って下されば幸である。

クラブ大会段階私案

・県別選手権（47都道府県）	4～5月
・ブロック選手権（全国9地区）	6月
・インター・ブロック（東日本選手権・西日本選手権）	7月
・王座決定戦	？



高性能機パーフェクトのほかにも
たくさんのすぐれた印刷機材があります

印刷機械

●パーフェクト（全自動B四截凸版印刷機）●各種断截機

材料

●引戸式ケース馬●スチール製和文植字台●パテントゲラ棚…など多種

母型
活字
写真製版



千代田印刷機製造株式会社

本　社	東京都千代田区神田猿楽町1の4	電話 (03)(292)2011代～8
横浜支社	横浜市西区高島2丁目10番20号	電話(045)(441)6782代～4
福岡支社	福岡市御供所町3番36号	電話(092)(28)3960・0153
千葉支社	千葉市市場通り122	電話(0472)(27)6463・(22)3979
立川工場	昭島市東町1丁目1番5号	電話 (0425)(23)3471～3
九州工場	佐賀県小城郡牛津町	電話 (95207)0072

波紋拡がるかモロッコの異議

11月15日と29日に世界各地で行われる第7回世界男子7人制選手権の地区予選（注・11試合）を前にモロッコ協会が、今回の予選方法はIHF（国際ハンドボール連盟）の世界選手権大会規程の精神を尊重していないという異議を申し立て、このほどIHFや各国協会へ抗議文書を送付、成り行きが注目されている。

IHFが今年の3月バーゼル（スイス）で決めた地区予選の組み合せでは、モロッコはポーランドと対戦しなければならないことになっているのだが、IHF世界選手権大会規程第3章第7条「世界選手権大会方法・予選の頂」によれば、本大会が今回のように16ヶ国で行われる場合は、各大陸につき1ケ国は予選なしで本大会への出場権を得ると明記されている。

モロッコは当初、アフリカ大陸からのもう一つの大会申しこみ国チュニジアと代表権を争うことになっていたのだが、昨年3月フランクフルトで予選カード編成のため開かれIHF技術委員会席上、チュニジアの不参加が表明され、モロッコは自動的にアフリカ大陸代表権を獲得したものとみなされた。ちなみに、日本がアジア大陸から唯一の参加国として代表権を与えられたのもこの席上である。

ここまでは一応問題はなかったのだが、その後、昨秋起きたヨーロッパにおける国際（政治）情勢の変動で、フランクフルト会議で決められた予選の実施が難しくなりIHF技術委は今年3月バーゼルで予選方法を再検討の結果、新しいカードを発表した。

日本のアジア大陸代表権は前回どおり認められたが、モロッコはポーランドとの対戦を義務づけられたのだ。

IHFがいかなる見解のもとにモロッコへアフリカ大陸代表権を与えないのかは不明だが、消息筋は「アフリカ大陸諸国に対する実力評価がIHF内部で低いためモロッコが〝犠牲〟にされたのではないか」とみている。

モロッコの抗議は筋が通っていると支持するムキもあり、ポーランドとの対戦拒否という最悪の状態も予測される。

またIHFが〝大陸〟という単位をはずして考えるという前兆だという観測もあり、そうなればオリンピックを控えてモロッコの投じた波紋は大きな拡がりを示そう

日本・イスラエル戦も要請

ところで、モロッコは、今回の抗議書のなかで、アメリカ大陸の代表権はアメリカとカナダの間で正当に行われようとしているのにもかかわらず、アフリカ大陸がまったく無視されていることを激しく非難するとともに、アジア大陸の代表を日本とイスラエル両国が争わないのも不当ではないかといっている。

IHFの決めた予選の組み合せではイスラエルは東ドイツと対戦することになつており、IHFはイスラエルをアジア扱いにしてはいないのである。

モロッコは、それにもかかわらずはっきりとイスラエルはアジア大陸だという判断を示しているのは日本協会としても見過すわけにはいくまい。

イスラエルが強豪のひしめくヨーロッパ地区をさけてアジア地区へ転籍するのではないかということは二年ほど前からしきりにいわれていたが、いぜんイスラエルはヨーロッパでの活動をつづけ、今年のヨーロッパカップトーナメントにも代表チームを参加させているのだ。

4年に1度開かれるアジア大会のいくつかの競技にはイスラエルも代表を送っており、ハンドボールの場合も、同国がアジア転入を希望したら、それを拒む理由は一つもない。

しかし、イスラエル側に現在までそうした動きや日本協会への働きかけはいちどもなく、それだけにモロッコが文書の中でイスラエルをアジアと断定しているのは、ヨーロッパ球界やIHF周辺ですでにそうした意向があるのではないかという推測もできる。

ミュンヘン・オリンピックの前に大陸別の予選が行われるとしたら、イスラエルは日本と韓国だけのアジア地区に移ってくることは充分予想されよう。

村田選手強化対策委員長の案では、来春世界選手権の帰途イスラエルに立ち寄り2試合を行いたいとしているが、もし、前述のような推測が実現へ向かうようだと、この親善試合は今後の日本ハンドボール界に大きな意味をもってくることになるのではなかろうか。

【杉山　茂】

イスラエルの特殊事情……解説

IHFの規定中には大陸間の地理的な明確な規定はない。地図によって定められた境界をとるのが常識であろうが、ことハンドボールに関しては、というよりもイスラエルに関しては、数多くの特殊事情が存する。

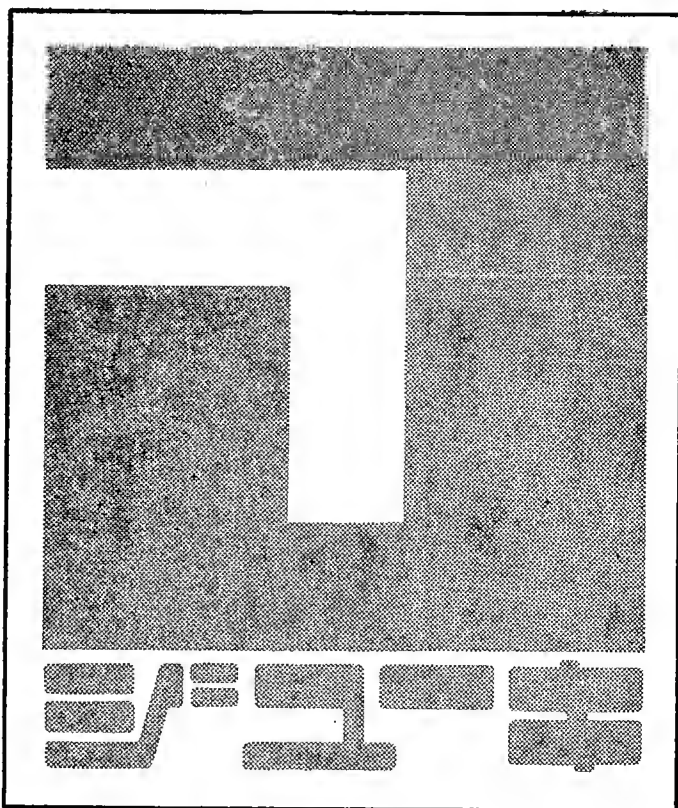
読者もすでに承知しておられるように、イスラエルはユダヤ数を信じ、国を失ったユダヤ人のために、そこの地域の住民の意向を無視して、第二次大戦後に設けられた国。回教圏のドマンナカに突如出現し、まわりの回教国とは鋭く対立し、小ぜりあいを含めて、戦火がたえない。

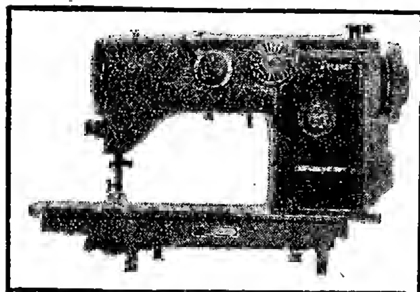
近隣諸国でハンドボールをやっている国はかなりある（アラブ連合、シリア、レバノン等）のだがこれら各国との交流は思うべくもない。たとえ、対戦することができたとしても、それは第三国でやらざるを得ない。そこでいきおい、ヨーロッパ諸国との交流を行なうようになる。それでも、遠征チームが来た場合、イスラエルと回教国を一度に遠征するということはまず考えられない。今年の東ドイツの遠征にしても、イスラエルは除かれている。というような状況にあり、またイスラエルの国力とハンドボール界の人脈を考えるならばヨーロッパに密着してきたのは当然であろう。

更に他競技にないハンドボール界の特殊事情が加わる。というのは、アジアでハンドボールを行なっているのは東端と西端の国々しかないということである。地理的に云えば、日本より、ヨーロッパにずっと近い。このような事情がからみあい、変則的な形ができあがってしまったというのが実情であろう。

【藤本　強】

ミシンはマークで
お選び下さい





*HZD－956*型
ダイカスト・フルオートジグザグ

東京重機工業株式会社

本社工場　東京都調布市国領町８丁目２番地ノ１電話（480）1111番（大代表）

日体大追う中央、芝浦、関西大 男子

もつれそうな女子 全日本学生選手権（11月26日～30日・駒沢）展望

男子第12回、女子第5回全日本学生選手権は11月26日から30日までの5日間、東京駒沢体育館と駒沢屋内球技場を併用して行われる。

参加校は男子が45校、女子9校とかってない多数で、男子トーナメントは3回戦（8試合）と準々決勝が同一日（第3日）となり、女子も決勝リーグを一日（最終日）で消化するという苦しい日程を余儀なくされた。

すでに男女とも組み合せは本誌前号で既報のとおり決まったが、今年は、東西の実力接近が予想され、特に関西勢の奮起がどのような形で現れるか期待が集っている。

8人の男子ナショナルプレイヤーが出場、女子もトップクラスが勢揃いするなど質的にも話題の多い大会で、文字どおり日本ハンドボール界のトップゾーンにふさわしい選手権大会になりそうである。

組み合せ別に優勝の行方を探ってみることにしよう。

なお、最終日（30日）の男子決勝は午後4時40分からNHK教育テレビで実況される予定。（S・S）

男子トーナメント

ダークホース・法政

▽Aブロック

準決勝へ

- 日体大（関東）
- 愛知教育大（東海）
- 九州産業大（九州）
- 追手門学院大（関西）
- 富山大（北信越）
- 国士館大（関東）
- 名古屋大（東海）
- 明星大（関東）
- 北海道大（北海道東北）
- 京都大（関西）
- 法政大（関東）

2連勝を狙う本命・日体大の優位は動かせない。

井上を軸に谷藤、塩崎、氷海らの巧技と藤中、斎藤（ともに全日本）の豪快な攻撃力をミックスさせた多彩な展開は抜群である。GKも本田（全日本）、大村で万全。

しかも笠原、大川、亀谷、松原岩下ら待機する選手層の厚さは他校をはるかにしのぎ、北川監督が巧みな選手起用をみせいっそうそのチーム力を引きあげている。

日体大の前に立ちはだかるとすればやはり法政だ。

関東学生秋季では16－16で引き分け日体大の全勝を拒んでいる。武井、荒井、大浜、西村、田上らのセットプレーは進境著しい。自分のペースに巧く日体大を引きこめばもつれるだろう。

国士館が日体にどう挑むかも一つの興味。試合運びに甘さはあるが川添を中心とした攻守は一流だ

このほかカードとしては九州産大－愛知教大、2回戦に予想される明星－名古屋大が白熱しよう。

"関西"の期待果すか関大

▽Bブロック

準決勝へ

- 早稲田大（関東）
- 甲南大（関西）
- 防衛大（関東）
- 仙台大（北海道東北）
- 桃山学院大（関西）
- 関西大（関西）
- 武蔵工大（関東）
- 金沢美工大（北信越）
- 順天堂大（関東）
- 南山大（東海）
- 東京教育大（関東）

関西勢がベストフォアに進出するとなればこのブロック以外にない。

関西勢はベストフォアばかりかここ2年、ベストエイトにさえも進出していない。今シーズンは韓国遠征代表選考大会（6月）における関大の善戦、学生東西対抗（9月）での西軍優勝など関西勢好調を裏付ける材料が多い。

有力とみられる関西大は馬着、松田の定評あるコンビネーションプレーを主武器に許、西脇、宮松らのシュート力は鋭い。GK入江の堅守も大きい。

これまで東西の差はスピードといわれて来たが、今年の関西大は緩急の使いわけも巧いし攻め口の巾も広い。

関西大を追うのは東京教大、早稲田－甲南の勝者、桃山学院あたりか。東京教大は若手で臨むともいわれるが技巧的なチーム。力強さに欠けるのは惜しいが、関大も油断はできない。早稲田は"今年の面目"をこの大会にかけておりその斗志が期待される。桃山学院は巧者・三国を要に上位進出を狙っている。地方勢では仙台大の評判が高い。

立ち直るか立教大

ダークホースの揃ったブロックだ。有力とみられるのは立教、同志社、中央。

立教は、小野口（全日本）を主力に倉前、戸田、加藤、古谷、橋本らテクニシャンを揃えているがやはり往時ほどの豪快なスケールに欠け関東学生秋季では切れ味も鈍く3勝4敗に終っている。有永（全日本）のヒザの故障がなおり切っていないとかなり苦しい。しかし、全員の勝負強さと巧さは相変らずだ。秋の低調から心理的に立ち直ってさえいれば全日本総合優勝，（全立教として…）の自信も手伝いやはり優勝候補からはずせない。

▽Cブロック

準決勝へ

- 立教大（関東）
- 本州大（北信越）
- 京都産業大（関西）
- 明治学院大（関東）
- 名城大（東海）
- 同志社大（関西）
- 大阪経済大（関西）
- 慶応大（関東）
- 金沢工大（北信越）
- 中央大（関東）
- 東京学芸大（関東）
- 東北学院大（北海道東北）

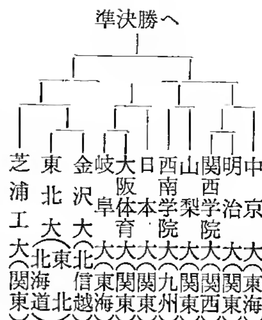
同志社大は中井（全日本）の成長で迫力では関西随一。中野。町田光田らで打倒関東を狙っている。

中央を買う声も大きい。植木（全日本）、長広、喜田、佐藤要、佐々木、花輪、GK望月という布陣はたしかにスキがないのだが案外にもろい。勝負に対する気持ちがあっさりしているのだ。このメンバーに執着心が加われば初優勝も有望だと思う。

この二校に食い下るとすれば新進名城大、GK今井、脇田、水野らをもつ大阪経大、セットプレーに特色のある慶応あたりだろう。

実力伯仲、混戦展開か

▽Dブロック



実力伯仲の強者が揃った。特に中京、明治、関学、西南学院が星をつぶしあうサイドは激戦の連続となろう。

前年ベストエイトの一角に食いこんだ中京はいぜん東海では敵なしの存在だが、このような大会になるとそうしたことがかえってマイナスとなり、せり合いに弱さをみせる。

明治は学生界きってのテクニシャン藤井の存在が大きい。彼一人のシャープなプレーでこの混戦を勝ち抜いてしまうのではないかとさえ云はれる。

関学は関西学生秋季では、かなり調子をあげていた。細川、真砂を主力に一本勝負のこの大会へかける斗志は侮れない。西南学院もまとまりのある攻守を誇る。

一方のサイドは芝浦工大の進出とみるのが順当だろう。FPをGKに廻さねばならぬほどの選手不足は往時の芝浦工大を知る者にとって信じられぬ話だが、新実（全日本）、明石、大江、木全、森ら新進アタッカー陣の若さにあふれた攻撃力はいい。過去8回優勝準優勝2回という伝統の名にかけても勝ち進むだろう。不安は守りだ。

日大—大阪体大の対戦は好試合になりそう。GK吉田、沢武を中心とした日大の力は侮れない。この勝者が芝浦にどう食い下るか注目される。準々決勝は明治—芝浦あるいは中京—芝浦となろうが芝浦工大有利とみたい。

守りがカギの中央×芝浦

波乱なく進めばベストフォアは日体大×関西大、中央大×芝浦工大となるだろう。

関西大に代って東京教大、早大中央に代って立教の進出も考えられる。立教は有永のカムバックがカギだ。

日体大×関西大は5月の韓国遠征校選考大会（5月）で対戦しており、この時は14—10で日体。

日体大は本田、藤中を欠いての対戦で、しかも夏から秋へと順調にチーム全体が力を伸ばしているので六分の利と断言したい。

関西大は5月の試合で日体大を追いこむ場面があったことと、東西対抗の勝利を自信の裏付けとして、どのような策戦をとるかにポイントがある。

中央×芝浦工大は互角。関東学生春は18—15、秋は23—19で芝浦が連勝している。攻撃力はともに巧さとパワーを備えているのだが守りの面では自信がないのではないか。したがって勝負の焦点はディフェンスのデキにかかってくる。

立教が進出するようだと予断は許さない。一本勝負、巧者揃いということを考えると立教が一気に勝ち進む可能性も充分にある。

連勝（日体）阻止の斗志期待

優勝争いは日体×芝浦・中央・立教。5年つづけて関東同士と見るムキが強い。

関東学生春秋で危気なく勝ち進んでいる日体大が相手がどこであろうが有利とみたい。

対戦校の活路は日体大を上廻る気力と斗志にあると結論づけるのは早計すぎるだろうか。

なお、優勝校は12月19日から東京体育館で行われる第16回全日本選抜選手権の出場権を得る（日体大または立教大が優勝の場合は2位校、両校決勝の場合は3位校に出場権が与えられる）

進境示す中京×関東2強（日体 東女体）

女子

▽予選リーグA組（日体大、中京女大、日女体大）

5連覇を狙い対学生83連勝という快記録をつづける日体大(関東)の2勝は動くまい。津熊、沢谷、中村のベテランが永田、佐藤、木村らの若い力を巧く活かしておりGK秋間も堅い。

中京女大（東海）がGK北岡の好守をもりたてて日体大の攻撃を食い止めるともつれる公算もあるが、肝心の攻撃力に鋭さがない。大崎、近藤らの頑張りを期待したい。日女体大（関東）は上野一人ではいかにも苦しい。

▽同B組（中京大、大阪体大、東京教育大）

成長を伝えられる中京大(東海)の試合ぶりに注目が集ろう。

チーム造りの名人・宇津野年一氏（名工大教授、元桜台高、中京商、田村紡などのコーチ）の指導を受けるようになってからチームプレーにめっきりたくましさを増した。特に砂浜、森、安田、石山らのシャープな攻撃力は東西対抗でも存分に発揮された。

森崎、坂本を中心の大阪体大（関西）、山口が引っぱる東京教大（関東）も上り坂だが中京大のまとまりには一歩をゆずろう。

注目される甲子園大

▽同C組（東京女体大、甲子園大東京学芸大）

東京女体大（関東）×甲子園大（関西）の一戦は予選リーグきっての好カード。

東京女体大は熊谷、高橋恭、高橋清、姫野ら主力にとって学窓最後の大会。新主将中島、関、新人水上、GK松田、坂野らの力も高く「目標はあくまで優勝」。

初登場の甲子園大は、関西女子学生結成大会で先輩校をあっさり降し、この大会でも無気味な存在吉開（元田村紡）、中本、今井、篠原、亀谷ら好選手を揃えている

東京女体大の攻撃に一日の長があるが甲子園大の健斗を期待したい。東京学芸大は気力でどこまでといったところ。

三すくみの公算も

決勝リーグに進むのはよほどのことがないかぎり日体大、中京、東京女体大の3校だろう。

おのずと焦点は関東2強×中京大ということになる。

チーム力に一長一短があり予断を許さないが、同一日の連戦という決勝リーグの日程も微妙に作用しよう。堅城を保つか日体大、宿願を果すか東女体大。野望を遂げるか中京大。三すくみの公算も強い伯仲の激戦必至である。

日体大、6勝1分で優勝飾る（2季連続20度目）

〜関東学生秋季リーグ戦〜

女子体大　2位に芝浦工大、立教は4敗

関東学生秋季リーグ戦は10月4日から20日までの7日間駒沢屋内球技場と駒沢体育館で開かれた。
男子は4部32校、女子は5校が参加、全122試合を初めて室内で進め、トップゾーンにふさわしい内容のある熱戦が連続した。
男子1部は日体大が5勝1分、芝浦工大が6勝1敗という成績の中で最終戦日体—中央戦が行はれ、まれにみる好試合の末、日体大が辛くも中央の追撃を振り切り6勝1分となり2シーズン連続20度目の優勝を決めた。
2部は早大が危気なく全勝（4度目の優勝）3部は関東学院大、4部は独協学園大がそれぞれ初優勝した。
女子は予想どおり日体大と東京女体大が全勝で最終日に対決、日体大が常勝の名にふさわしい迫力のある攻守で東京女体大を降し17シーズン連続21度目の優勝を飾つた。

上位校、緊張のスタート

▼第1日（10月4日）

▽男子1部

中　央 20（14—9、6—6）15 明　治
立　教 20（11—6、9—4）10 東京教大
日体大 20（6—5、14—5）10 日　大
芝浦工大 22（12—13、10—8）21 法　政

▽同2部

早稲田 23（15—8、8—7）15 東京学芸大
明　星 22（10—12、12—8）20 慶　応
国士館 30（15—7、15—8）15 東　大
順天堂 28（15—8、13—7）15 防衛大

▽同3部

千葉商科大 22—12 上　智
武蔵工大 18—12 明治学院
関東学院 17—11 千葉工大
茨　城 16—8 東　海

▽同4部

独　協 27—6 東京理科大
横浜商科大 32—13 都立大
一　橋 17（分）17 成　蹊
流通経済大 22—12 青山学院

▽女子

東女体大 14（7—1、7—4）5 東京教大

○……優勝候補・中央は前半明治の粘りにあって容易に主導権を得ることができず、後半になってやっと鋭いタテの突進から得点を重ねて押し切った。
立教も勝ったものの必しも歯切れのよい試合ぶりではなかった。
第1日というものはどのような時でも緊張するものなのだろう。
その意味で1部初登場の日大が連勝を狙う日体大にどう挑むか注目が集った。日体大の慎重なスタートに比べ日大は豪放な試合ぶりを見せた。10分まで2—1。しかし地力に優る日体大はしだいに斎藤らを中心とした速攻で点差を開きスピード差を見せつけた。
○……芝浦×法政は好試合。前半なかば5—6から芝浦は3点をあげて逆転したが、法政もピッタリとつき、後半開始早々荒井の連続ゴールで10—10。一進一退をつづけたが、芝浦がわずかに先行、後半15分には17—12とリードを奪った。
しかし法政も粘り、25分には19—20。、2点づつを入れあったあと29分30秒法政は7MTを得て場内をわかせたのだが武井が狙いすぎて失敗、同点のチャンスをつぶした。芝浦のGK平野はFPから転向したばかりの選手、冷静によくさばいたものだ。
2部では明星が慶応の反撃をおさえたのが目立ち、早稲田は後半に実力を発揮した。3部で注目の東海大（春季4部1位）は緒戦を飾れなかった。
女子は東女体大の順当勝ち。

立教、法政に敗れる

▼第2日（10月6日）

▽男子1部

芝浦工大 18（12—5、6—6）11 東京教大
中　央 21（9—9、12—7）16 日　大
日体大 29（17—3、12—6）9 明　治
法　政 13（8—8、5—3）11 立　教

得	【法政】		【立教】	得
0	和田	GK	馬淵	0
0	川畑	GK		
		FP	小野口	5
4	武井	FP	加藤	0
0	佐川	FP	戸田	1
4	大島	FP	倉前	3
1	西村	FP	古谷	1
0	大浜	FP	稲本	0
2	荒井	FP	原本	0
2	田上	FP	吉本	1
0	田中	FP		
0	小林	FP		
13	(0)	7MT	(2)	11

（審・大塚、一宮）

▽同2部

国士館 33（15—13、18—4）17 東京学芸大
明　星 棄権 防衛大
早稲田 22（13—3、9—6）9 東　大
慶　応 26（10—6、16—8）14 順天堂

▽同3部

武蔵工大 16—11 千葉工大
茨　城 21—8 上　智
千葉商科大 23—19 東　海
関東学院 21—5 明治学院

▽同4部

都　立　大 27—6 東京理科大
成　蹊 30—15 流通経済大
独　協 16—14 横浜商科大
一　橋 22—7 青山学院

▽女子

日体大 12（4—3、8—2）5 東京学芸大

○……芝浦×東京教大は、後半5分まで互角に進んだが、芝浦はそのあと大矢らがよく走り連続5点をあげてペースを握り、20分には16—8と開いて勝負を決めた。
中央×日大は、立ちあがり日大の健斗でもつれたが、中央はロング、ポストを使い分けて加点、後半開始後すぐに15—7と開いてつきはなした。
法政×立教は白熱。立教の激しい追いあげで後半13分9—8となり息ずまる接戦となった。
好調の法政は追われても余裕があり16分荒井、17分田上、19分大

島と得点して主導権を確保。立教も必死に攻めたて11—12と再び1点差。立教は残り2分でプレスディフェンス。そのスキを法政は武井がついてダメ押しのゲット、これで勝負が決まった。本部席で「プレスして勝った例は少ない」という声がした直後のプレーだった。

2部以下では新加盟の成蹊大のまとまりある攻守が目についた。

日大、立教から初勝利

▼第3日（10月8日）

▽男子1部

芝浦工大 20（10—3、10—13）16 明治

中央 25（8—4、17—8）12 法政

日大 14（8—3、6—10）13 立教

【立教】得
GK 馬渕 0
FP 小野口 3、加藤 0、戸田 4、倉前 3、古谷 0、橋本 0、有永 3、原本 0、吉本 0、片山 0
（審・斎藤、一宮）
【日大】得
GK 吉田 0
FP 松 3、沢武 4、飯泉 1、田中 2、渡辺 0、宮川 3、栗岩 1、内山 0

14（0）7MT（1）13

日体大 27（15—6、12—6）12 東京教大

▽同2部

慶応 25（12—9、13—6）15 東大

東京学芸大 棄権 防衛大

早稲田 20（9—7、11—7）14 順天堂

明星 14（8—6、6—7）13 国士館

▽同3部

千葉商科大 14—5 千葉工大

東海 22—19 武蔵工大

茨城 22—10 明治学院

関東学院 17—7 上智

▽同4部

都立大 22—21 流通経済大

成蹊 14—10 東京理科大

独協 18—14 一橋

横浜商科大 25—9 青山学院

▽女子

日女体大 5（2—4、3—1）5 東京教大　引き分け

東女体大 21（10—0、11—0）0 東京学芸大

○……日大が立教を破ったのがなんといってもハイライトだった。

日大は前2日の善戦でかなり自信をつけたような積極的な攻めっぷりを見せた。決め手がないまま前半10分まで両校無得点のあと日大は飯泉、栗岩、宮川が連続得点立教は20分3—4としたが、日大はあわてず沢武の活躍などで5点差をつけて後半に入った。

追う立教は負傷の有永を起用して猛反撃。後半10分には8—8と追いっいた。ところが今季の立教はここでもう一押しがない。前日の法政戦もそうだ。せっかくタイとしながら日大・宮川のロングをあっさり許し、23分10—12から再度反撃を示したもののついに追いつくことができず逃げ切られた。日大は1部初勝利を大敵・立教から奪った。

このほかの1部3試合は波乱なく進み、中央が法政から後半17点をもぎとった快攻が注目された。

女子は進境を示す東京教大が前半巧く日女体大からリードを奪ったが、後半、追加点をあげることができずタイに追いつかれ引き分けた。

東女体大は完ぺきの攻守で零封勝ち。

法政、日体大と星分く
女子・教大、日体大に善戦

▼第4日（10月9日）

▽男子1部

中央 20（12—4、8—8）12 東京教大

芝浦工大 25（9—8、16—6）14 日大

立教 18（12—10、6—6）16 明治

日体大 16（7—7、9—9）16 法政　引き分け

【法政】得
GK 和田 0、川畑 0
FP 武井 3、佐川 2、大島 2、西村 2、大浜 0、荒井 5、田上 2、田中 0、小林 0
【日体】得
GK 本田 0、大村 0
FP 井上 4、谷藤 2、藤中 5、塩崎 1、斎藤 3、笠原 0、亀谷 0、松原 0、永海 1、岩下 0

16（1）7MT（0）16

▽同2部

慶応 31（14—5、17—6）11 東京学芸大

早稲田 19（9—10、10—6）16 明星

【明星】得
GK 吉野 0
FP 堀 0、清水 3、関根 1、増田 1、大脇 0、宇佐美 6、杉田 2、高森 1、吉岡 2
【早大】得
GK 山本 0
FP 尾島 2、鈴木 3、杉山 1、斎藤 8、武藤 2、高橋 0、嶋田 2、矢吹 1、加藤 0、長谷川 0

19（2）7MT（2）16

国士館 20（7—7、13—12）19 順天堂

東大 22（14—7、8—9）16 防衛大

▽同3部

武蔵工大 20—10 上智

茨城 20—16 千葉工大

千葉商科大 18—17 明治学院

関東学院 16—14 東海

▽同4部

都立大 17—11 一橋

青山学院 21—20 東京理科大

独協 27—11 流通経済大

成蹊 20—15 横浜商科大

▽女子

日体大 8（4—4、4—2）6 東京教大

【東教】得
GK 黒田 0
FP 山口 3、渡辺 0、坂倉 0、山本 1、継 1、川島 0、岡田 0、橋本 0、韮沢 1
【日体】得
GK 秋間 0、大工原 0
FP 津熊 0、沢谷 1、中村 0、佐藤 1、木村 4、永田 1、福田 1、嶋田 0、高嶋 0、赤塚 0

8（0）7MT（0）6

○……好ゲームの連続だった。白星を重ねようとする上位校、一歩も後にひけない下位校の激しい斗志が後半戦を迎えるにあたってぶつかりあう結果だ。学生界の意気ともいえる。

中央×東京教大は前半で勝負は決まってしまったが、東京教大も後半巧技をよく活かしての健斗をみせた。

芝浦×日大は日大の戦力アップがはっきり認められた。

日大は前日に一点差ながら、立教を破り、その前からもちはじめていた自信をますます強めていた。この試合の1勝が大きく作用している。前半は松田、宮川らのシュート力をよく生かし、また芝工大の攻撃を押さえ、8—9とほぼタイに近い試合ぶりを示した。

だが日大の健斗もここまで。後半は奮起した芝工大の猛攻に斗志をなくし大差をつけられてしまった。

立教×明治は小野口（立）、藤井（明）と定評あるテクニシャンを軸にした多彩な攻防の応しゅうとなり見ごたえがあった。

一進一退の末、前半のリードを小野口を中心とした攻撃力でキープした立教がそのまま逃げこんだ。

明治は前半の点差が結局おいきれず、惜しい試合を逸っした。

○……日体×法政は法政が3—0と先行、がぜん興味ある展開となった。日体は10分まで7MT（斎藤）の1点だけ。ようやく13分3—3、17分井上のゲットで逆転したのだが法政も19分武井、19分30秒荒井が鋭いプレーをみせて5—4。このあとシーソーゲームをくり返し日体は前半終了直前藤中のシュートで4度目の同点(7—7)に追いつき後半を迎えた。

後半、日体は巧く攻めて15分15—11とし、調子を整えたかにみえたのだが、法政もよく粘り16分から3ゴール、守りを固めて逆に試合のペースを奪い25分荒井のゴールで15—15、26分田上のゲットで16—15とするすばらしい攻撃をみせた。

15分以後追加点のあげられぬ日体大は28分藤中が辛くもゴールを決めて引き分けに持ちこんだ。

法政のセットからの多彩な攻め口は今シーズン大きな成長を示し三転四転の好ゲームであった。

○……2部は明星が早稲田に対して善戦。女子では東京教大が山口の活躍を中心として日体大に一歩もゆずらぬ大健斗をみせた。

地力にまさる日体大は、後半4—5の苦境から8分沢谷、9分佐藤のゲットでやっとリード。終盤一度追いつかれたが木村の連続ゴールで勝ちこした。薄氷を踏むような勝利だった。

日体、芝浦降しトップに

▼第5日（10月15日）

▽男子1部

法政 17（5—11、12—5）16 日大

明治 15（6—5、9—5）10 東京教大

得	【明治】		【教大】	得
0	田中	GK	上野	0
			仲尾	0
0	田辺	FP	斎藤	3
5	藤井		浅野	1
2	野村		梁川	0
2	鈴木		水藤	0
2	住田		高橋	3
4	浦野		久下	1
0	末田		横島	2
0	佐藤		森	0
0	安部		杉山	0
16（0）		7MT		（1）10

立教 15（7—9、8—5）14 中央

得	【立教】		【中央】	得
0	馬渕	GK	望月	0
7	小野口	FP	喜田	6
0	加藤		植木	2
2	戸田		長広	1
4	倉前		植田	0
0	古谷		中野	0
2	有永		佐藤要	1
0	橋本		佐藤光	1
0	原本		小井土	1
0	吉本		花輪	0
0	片山		佐々木	2
15（0）		7MT		（1）14

日体大 15（9—6、6—6）12 芝浦工大

得	【日体】		【芝浦】	得
0	本田	GK	平野	0
0	大村			
2	井上	FP	高鍬	2
2	谷藤		平瀬	0
0	笠原		金子	0
4	藤中		大矢	1
1	塩崎		森	0
4	斎藤		明石	4
0	亀谷		大江	2
2	氷海		新実	3
0	中村		木全	0
0	松原		若崎	0
15（0）		7MT		（0）12

▽同2部

明星 25（16—8、9—4）12 東京学芸大

国士館 22（11—8、11—8）16 防衛大

順天堂 17（7—6、10—2）8 東大

早稲田 18（8—8、10—3）11 慶応

▽同3部

武蔵工大 11（分）11 千葉商科大

明治学院 14—13 上智

関東学院 18—8 茨城

東海 26—18 千葉工大

▽同4部

横浜商科大 13—11 一橋

独協 26—9 青山学院

都立大 22—19 成蹊

東京理科大 19（分）19 流通経済大

▽女子

日体大 14（6—3、8—4）7 日女体大

○……法日戦は前半7点差をつけた法政の楽勝におわるかにみえたが、日大は後半に入って田中の好リードから連続5点をあげて2点差とし、予断を許さぬ展開となった。追いこまれた法政はここで負傷の武井を送りこんで立てなおしをはかったが、日大は宮川の活躍で12—13。しかし法政はこのあと荒井、田上、西村らの巧技で17—13とどうにかリードを保ち、必死に食いさがる日大を振り切った。

日大は後半、勝利への執念をみせてよいプレーを示したがあまりにも前半の失点が大きすぎた。明治×東京教大は藤井、浦野らチャンスを着実に活かした明治の順当勝ち。東京教大は精彩をいっこうにとりもどすことができず、この試合でも後半20分間ノーゴールという元気のなさだった。

○……立教×中央は「優勝」を意識しすぎた中央が、立教のセットプレーのペースにはまりこんで痛い星をおとした。

立教は久々にスタートから有永を起用。中央のディフェンスのマークを誘ったため、小野口、倉前戸田らテクニシャンが存分に動きまわれた。特に小野口は上下を射ち分ける多彩なシュートで活躍、後半3分には10—5、15分には13—8と優位をキープ・中央の反撃はここから始った。

18分小井土のゲットを皮切りに喜田の連続3ゴールで24分には12—13と1点差に迫った。

しかし、立教も25分と28分倉前が鮮やかなプレーで加点、3点差をつけたのが大きかった。中央は最後まで粘り再び1点差としたが時間がなかった。

前半終了まぎわから後半なかばまで中央は立教のセットプレーにじらされて攻撃チャンスを得ても単調に攻めこんだ失敗が敗因だろう。

○……日体×芝浦は予想どおりの好試合となった。

芝浦は立ちあがり守りも固く、日体大の攻撃を17分間1点におさえ攻めては明石の好技で3—1とリードした。

前半20分をすぎてから日体の攻撃がようやく芝浦のディフェンスを崩しだし、26分藤中のゲットで6—6に追いついた。

勝負をかけた後半、日体は斎藤塩崎、井上の得点で初めて優位に立ちその後も順当に加点、25分14—8とした。芝浦にもチャンスはあったのだがもうひとつスピードが乗らず、25分以後たてつづけに4点をあげただけに、中盤での攻撃失敗が悔やまれよう。

2部では早慶戦が前半で大勢が決まり、3部は関東学院、4部は独協の好調がつづいた。

中央連敗、優勝圏外へ

▼第6日（10月16日）

▽男子1部

日大 18（8—10、10—7）17 東京教大

明治 20（10—3、10—9）12 法政

日体大 21（13—9、8—1）10 立教

芝浦工大 23（14—10、9—9）19 中央

得	【芝浦】		【中央】	得
0	平野	GK	望月	0
11	高鍬	FP	喜田	5
0	平瀬		植木	4
1	金子		長広	3
4	大矢		植田	3
0	若崎		中野	0
1	明石		佐藤	2
2	大江		佐藤	0
0	木金		小井上	0
3	新実		花輪	1
1	森		佐々木	1
23	（2）	7MT	（1）	19

▽同2部

順天堂 24（14—11, 10—6）17 東京学芸大

明星 27（14—3, 13—3）6 東大

早稲田 27（12—6, 15—2）8 防衛大

慶応 27（12—14, 15—7）21 国士館

▽同3部

上智 11—10 千葉工大

茨城 20—11 武蔵工大

東海 21—18 明治学院

関東学院 20—15 千葉商科大

▽同4部

都立大 24—8 青山学院

一橋 18—14 東京理科大

横浜商科大 34—11 流通経済大

独協 13—11 成蹊

▽女子

東女体大 18（10—0, 8—4）4 日女体大

東京教大 11（3—3, 8—0）3 東京学芸大

○……芝工大×中央大は優勝の行方を左右する大きな一戦。この一戦を失ったチームは優勝戦線から離脱してしまう。

すべり出しは両者互格。芝浦は高鍬、大矢を中心にしてよく走り得点を重ねれば、中央も喜田を中心にした攻撃が身を結び、喜田、長広、植田らが得点を重ね、9—9のタイで前半を終了。

後半が始まると、芝工大は30秒高鍬の7MTを皮切りに、5分までに金子、高鍬、明石と4連続ゴールをあげ、13—9と4点差にした。中央も10分までに2点を返したが、この間芝工大は12分までに高鍬が2点、新実が3点をあげ18—12と6点差にし、大勢を決した。中央もこのあとよく追ったが結局3点差以上につめることができず、後半開始直後の芝浦の猛攻の前に屈し、優勝戦線から退いた。

立教に1勝をあげ、その後の試合でも健斗している日大は前半のリードを生かし、教育大を振り切り、一部残留を決定した。

明大×法大は前半はタイであったが、法大が後半大きく崩れ、明大の勝利。日体×立大は力の差がはっきりと現れた。2部は早稲田が順調に防大を退け、3部も関東学院が全勝を続けた。

女子は東女体大、東京教大が実力通りの試合を見せた。

芝浦工大、1敗守り2位

▼第7日（10月20日）

▽男子1部

明治 17（7—7, 10—10）17 日大（引き分け）

法政 23（10—8, 13—8）16 東京教大

芝浦工大 26（10—12, 16—8）20 立教

得	【芝浦】		【立教】	得
0	平野	GK	菱形	0
			馬渕	0
6	高鍬	FP	小野口	7
0	平瀬		加藤	3
3	金子		倉前	0
1	大矢		戸田	0
0	若崎		菅間	0
0	森		橋本	0
6	明石		有永	10
6	大江		原本	0
0	木全		吉本	0
4	新実		片山	0
26	（1）	7MT	（2）	20

日体大 17（12—7, 5—6）13 中央大

得	【日体】		【中大】	得
0	本田	GK	望月	0
0	大村			
2	井上	FP	喜田	1
1	谷藤		植木	0
0	笠原		長広	4
3	藤中		花輪	0
4	塩崎		植田	0
6	斎藤		中野	0
0	亀谷		佐藤要	2
0	中村		佐藤光	0
1	佐々木		小井土	1
			佐々木	5
17	（0）	7MT	（0）	13

▽同2部

東大 20（10—6, 10—6）12 東京学芸大

順天堂 18（13—9, 5—6）15 明星

慶応 19（9—3, 10—13）16 防衛大

早稲田 33（19—3, 14—6）9 国士館

▽同3部

東海 20—10 上智

茨城 20—16 千葉商科大

明治学院 14—13 千葉工大

関東学院 18—12 武蔵工大

【順位】①関東学院7勝②茨城大6勝1敗③千葉商大4勝2敗1分④東海大4勝3敗⑤武蔵工大3勝3敗1分⑥明治学院2勝5敗⑦上智1勝6敗⑧千葉工大7敗

▽同4部

成蹊 26—16 青山学院

横浜商科大 38—21 東京理科大

独協 17—9 都立大

一橋 25—13 流通経済大

【順位】①独協7戦全勝②都立大5勝2敗③成蹊4勝2敗1分④一橋4勝2敗1分⑤横浜商科大4勝3敗⑥流通経済大1勝5敗1分⑦青山学院1勝6敗⑧東京理科大6敗1分

▽女子

東女、前半の逸機たたる

日体大 7（6—3, 1—0）3 東女体大

得	【日体】		【東女】	得
0	秋間	GK	坂野	0
			松田	0
2	津熊	FP	高橋恭	1
0	沢谷		高橋清	0
1	中村		川井	0
3	永田		堀江	2
1	木村		関	0
0	佐藤		阿部	0
0	福田		水上	0
0	嶋田		勇次	0
0	赤塚		加島	0
0	高嶋		中島	0
7	（1）	7MT	（2）	3

日女体大 14（10—7, 4—2）9 東京学芸大

【順位】①日体大4戦全勝②東京女体大3勝1敗③東京教大1勝2敗1分④日女体大1勝2敗1分⑤東京学芸大4敗

○……優勝の行方をかけた芝浦×立教、日体×中央の2試合はさすがにスリリングな展開で場内をわかしにわかせた。

日体×中央はたちあがり、藤中が2点をあげ、日体は快調な滑りだし、この分では、大差になるのではないかというスタンドの声もきかれる。ところがそのあと日体は15分間ノーゴール、この間に中央も佐々木の巧技などで点を返しシーソーゲームを展開した。前半終了間ぎわ、佐々木3点めの巧技で1点をリードし、前半を終了。

前半の日体は速攻は良いのだがセットになると、攻め手が見つからず、苦戦になった。

後半開始後もしばらく両チームのキーパーの好守もあり、得点がとれなかった。

日体はロングヒッター斉藤に球を集める策に出、それがしだいに効を奏し、10分から15分の間に斉藤が2点、それに塩崎が2点を加え10—7と3点差をつけた。中央もよく2点を返し、1点差につめたものの20分をすぎてからまた斉藤が連取し、大勢を決めた。

これによって、日体は無敗で二シーズン連続、20度目の優勝を飾った。中央は今一歩の所まで追いつめながら、斉藤のシュートに無策すぎた。優勝を飾るにふさわしい好内容の試合であった。



立教×芝浦も好試合。たちあがり、立教は小野口のシュートによってリードした。これに対し、芝工大は明石のサイドシュートによって対抗。15分までは、立教に芝浦が追いつくという形をとったが、15分をすぎてから、芝浦の攻撃が爆発、15分には、6—6であったのが前半が終るときには16—8と8点差になった。この間立教はミスが続発し、芝浦はそのミスをすべて、速攻に結びつけ、明石新実の若手がこれをよく決めた。立教は負傷をおして出場している有永がベンチに退くと、小野口しかシュートがうてず、それを芝工大につぶされると攻め手が全くなく、いたずらにボールを廻し、その結果ミスが出るということをくりかえしていた。

後半に入ると立教は有永にボールを集める策に出、有永もよくこれに応え、フリースローダイレクトを含め、12メーターぐらいのロングなどスケールの大きいシュートを見せた。しかも投げるシュートすべて入るという快調ぶり。しかし、せっかく得点をあげなも、ディフェンスが一つしまらず、差をつめることはできなかった。これで立教は16シーズンぶりに勝率5割を割った。

女子はここ数シーズンいつ日体大の連勝を東京女体大がはばむかと興味がもたれていたが、今シーズンも日体大の執念の前に、東女体大はついに念願を果せなかった

この試合、東女体大は前半押しに押し、いくつかの決定的なチャンスをもちながらついにそれを得点に結びつけ得なかった。守っては、GK坂野の好守で日体大につけこむスキを与えていなかっただけにこの逸機は惜しまれる。先取点は日体の津熊がまずあげた。これによって、日体大の気分がほぐれ、ボールもよく廻るようになった。前半は両チームを通じて、この1点のみ。

後半、先手をとったのは日体の連続ゴール。東女体大は堀江の7MTで僅かに対抗するだけ。日体は永田のミドルで得点を重ねた。

何よりも日体大のファイトというより執念の固りのようなプレーに東女体大が圧到されたというべきであろう。これは東女の女子機をかなり荒いと思われるプレーで数度にわたり阻み、また自ら敵中をドリブルし、攻撃の突破口を開いた中村のプレーに典形的に現われている。日体はこれで昭和36年10月以来つづけている対学生チーム連勝記録を83とのばした。

関東学生秋季（男子1部）

順位	日	芝	中	法	立	明	日	教	勝	負	分
①日体	×	○	○	△	○	○	○	○	6	0	1
②芝浦	●	×	○	○	○	○	○	○	6	1	0
③中央	●	●	×	○	●	○	○	○	4	3	0
④法政	△	●	●	×	○	●	○	○	3	3	1
⑤立教	●	●	○	●	×	○	●	○	3	4	0
⑥明治	●	●	●	○	●	×	△	○	2	4	1
⑦日大	●	●	●	●	○	△	×	○	2	4	1
⑧教大	●	●	●	●	●	○	○	×	0	7	0

〔二部順位〕　①早大7勝　②慶大5勝2敗　③明星大5勝2敗　④順天堂大4勝3敗　⑤国士館大4勝3敗　⑥東大2勝5敗　⑦学芸大1勝6敗　⑧防衛大7敗

早大、カムバック成らず

▼各部入れ替え戦（10月24日・早大球技場）

▽1・2部
東京教大（1部）16（5—5 / 11—5）10 早稲田（2部）

▽2・3部
防衛大（2部）15（7—7 / 8—3）10 関東学院（3部）

▽3・4部
独協（4部）11（5—2 / 6—8）10 千葉工大（3部）

同志社大つまづく
関西・東海学生も開幕

関西学生秋季リーグ戦は10月18日大阪府大体育館で、東海学生秋季リーグ戦は10月26日名古屋大球技場でそれぞれ開幕。

関西では優勝候補にあげられていた同志社が第3日大阪経大に敗れる波乱がおきている。また、今秋から女子リーグが発足した。本誌〆切りまでの記録次のとおり。

【関西】▽男子1部関大25—10甲南、同志社20—13桃山学院、関学17—13大阪経大、甲南20—14桃山学院、大阪経大11—9同志社、関大22—19関学　▽女子甲子園22—4武庫川

【東海】▽男子1部中京21—8南山、名城16—9愛知教大

〔写真は関東学生リーグ最終日日体大—東女体大の一戦から山田真市・撮影〕

全日本男子遠征報告 (3)

～ヨーロッパの2ケ月～

ヨーロッパのGKとその技術

福本　弘
（GK・大崎電気工業）

これまで私の見た限りではヨーロッパ諸国のGKの体格はそれ程フィールドプレーヤーより大きくなかった。しかしそれは、以前の話であり、現在は1m90近い選手が出て来ている。日本のGKと比較した時、足に問題がある。

彼等は小さい時からフットボール（サッカー）をやり、瞬間的に足が出る。日本のGKは、ボールは手で運ばれるものであり足は何か不自然の様に思われるために、足の動作が非常に悪い様に思う。

その点ヨーロッパの各国の選手（GK）は、非常に足の動きが（ボールに対し）早い。そして確実に当て、球を殺しているのには感心させられる。

ヨーロッパ全てのGKは速いボールに対し体全体が移動しているこれは、日頃からスピードあるシュートを受けている為に感が養われて行くのだろう。

けっして、日本のGKも、技術的には変らないと思う。ただスピードボールに対しての心がまえが出来ていないのと、多くのスピードボールを受けていないところに差があると思う。

ヨーロッパのGKは、見るたびにポジション（立つ位置）が変って行くのに気がついた。それは、シューターとのかけ引からくるものであろう。手の構えも変って来ている。ポジションも、前に出たり、ゴールライン近くまで下ったり、それにより、シューターの角度を変えて、ボールを防ごうとしている。日本選手が、欧州に遠征してそれまでの経験から割り出したプレーが通じなくなったり、ノーマークのシュートが決まらなくなるのも、GKのポジションの変化にありGKのたゆまぬ研究心によるものなのだ。

各国のGKを見ると、北欧タイプと東欧タイプに分けられる。北欧のGKは非常にはでな動きをする。それに比べ、東欧―例へば、チェコ、ルーマニア、ソ連と云った国のGKは地味で、確実な動きをする。これはお国がらとも云えるだろう。ヨーロッパの優秀GKの中でも、デンマークのホルストは非常にはでな動きをし、第6回世界選手権では、優秀選手に選ばれている。ルーマニアのレドルも4回大会では最優秀選手に選ばれているがしかし彼の場合は確実な防禦であった。又、チェコの鉄の壁と云われるヴィチャは、40代という大ベテランだが、すばらしい動きをする。又、ソ連の壁の異名を持つジマルは1m73でありながらボールに対して大きく力強い動きを示す。今回の遠征で顔を合せにソ連のイチエンコは、終始落着いたプレーをしていた。

イチエンコは1m96もあるにもかかわらず、足もとが、非常に強い。両手両足を開いて飛ぶが下を打つと見事にはじかれる。以上の5人の共通している事は手ばかりではなく足下が非常に強いと云うことだ。これは、前述のように、フットボールをやり、足を使う練習が多いからだろう。

ルーマニアで講習を受けた時にGKだけの練習方法があったのだが非常にやることが多く足を動かす練習の多い事に気がついた。ルーマニアばかりではなく各国もこの様な内容のある。そして、種目の多い練習を行なっているのだと思う。日本はまだGKだけのトレーナーは居ないが、ヨーロッパ各国ではGK専門のトレーナーもいることに強さがある。ルーマニアであるコーチに次の事を云われた。

『私はある国へ指導に行って、そこの国のGKに、どの様にしたらボールが多くおさえることが出来るかと聞かれ、私は、そのGKに指導をした。そしてそのGKはゲームに臨んだ。しかし、前半では、私の指導した方法で、ボールをおさえることが出来なかった。後半に入り、私は、あなたが今までやって来たフォーム（構え）でやりなさいと云った。すると後半には全てのボールをおさえることが出来た』

それだけ、GKに対しての指導は、今までの練習・体力・気力を無視して指導することはむずかしいと云っていた。しかし、練習方法と、基礎はすべて同じである。小さい者は大きくかまえることなど、どこの国でも同じである。ルーマニアでは、GKの練習日程がある様で、例えば日曜日にゲームがある時は

（月）普通のゴールキーパーの練習
（火）月曜日に同じ
（水）フィルドプレーヤーと同じ練習をする
（木）普通のゴールキーパーの練習
（金）ゴールに入らずフィルドプレーヤーの様に軽く体を動かす程度
（土）金曜日に同じ
（日）ゲーム

ゲームの前に、練習をしないと云うのはボールを取ることに新鮮な気持で臨むと云う事の様である。

ヨーロッパのGKの技術は、フィルドプレーヤーによって変化して行く。長身の選手は上から下え打ちおろし、それによってGKはその球を取る為に、下のボールをいかに防ぐかの課題が生まれる。最近のヨーロッパのGKは、腰から下は足で、上は手という防禦方法が〝常識〟のようである。しかし、これにしたところで、この次ヨーロッパ選手（GK）に接した時は変っているかも知れない。つねにベストを求めて新しいテクニックをあみだしているのがヨーロッパのハンドボール界であり、それがハンドボールの〝本場〟といわれるゆえんでもあろう。

欧州各国の全国選手権

〜その法式と実情〜

村田　弘（全日本男子監督）

日本でも全日本選手権について再検討が進められているようだがヨーロッパ各国では、その年度（シーズン）のチャンピオンチームというものに対する評価というか権威というものが想像以上に高い。

したがって、チャンピオンを決定するナショナル・トーナメント（国内選手権）も厳しく激しいものがあり、その一試合々々の成績はハンドボールファンを一喜一憂させているようだ。ちょうど日本で云えばプロ野球のスコアを見るようにファンは新聞をのぞきこんでいる。

今回の遠征で各国関係者に会って聞いた各国の選手権の法式を参考までに記しておきたい。






◎西ドイツ

いわゆるブンデス・リガ。全国リーグである。全土を南北に分け、南北ともに各8チームでリーグ編成、2回総当りの試合を行って南北それぞれの上位2チームが西ドイツ選手権を争う。

下位2チームは南北とも下部リーグと自動的に入れ替わる。

試合はだいたい土・日曜日に行われホームアンドアウェイが常識だ。好カードになると五千をこすファンがつめかけるが、たいていは各チーム（クラブ）の専用コートを使うため収容力が少く。一千〜二千というところらしい。

7人制の全国リーグ10月から3月までで新聞、専問週刊誌などに結果や日程が詳しく報じられスター選手が花々しく紹介される。そうした選手の写真やプレーの掲載誌（紙）にサインを求める少年たちを会場の周囲に多数みかける。

◎ルーマニア

ルーマニアには男女ABリーグがあり、Aリーグは全国で10チームBリーグは2地区に別れ各10チームよりなる。Aリーグは春秋冬と3回、Bリーグは2回リーグ戦を行い、Aの下位2チームがBに落ち、Bの上位1位（2地区）がAリーグに入る。春秋は9回の日曜日、冬は金土日の3日間を3回行う（一週間休み）。プレイヤーの資格として18才以上でないとリーグに入れない。はこのほか下部組織ともいえる町単位のリーグもあり1位がBリーグに入る。したがってBリーグは都市町村対抗的熱狂が背景となる。ジュニアー選手権（18才位下）は年一回ブカレスト（主都）で6月開催、男女六地区代表とブカレストの代表一チーム合わせて7チームでリーグ戦を行う。各地区の代表はそれぞれのリーグ戦の優勝チームだ。この期間中にジュニアーナショナルを編成する。時間は男女30分、女子20分で実施。

◎ハンガリー

一部リーグ（最高）Aグループ男女14チーム、Bグループ男女12チーム。二部リーグAグループ男女12、Bグループ男女12、Cグループ男女12チームで組織されている。春は4月10日〜6月20日。秋は8月10日〜10月20日迄の間に開催される。リーグはルーマニアの方式と同じで下位2チームが落ち、下リーグの上位2チームが上る。ジュニアー選手権（16才〜19）は全国870チームが参加各地方予選を経て選ばれた6チームがしブタペストに集ってリーグ戦を行う。その時ジュニアーナショナルを男30、女25人を選ぶ。このほかピョネール選手権（少年全国大会）という大会がある。これは、450チームが参加し各地方予選（町、郡県、地方）を経た5チームとブタペスト（首都）の6チームでリーグ戦を行う。なお、ピョネールは11〜12才と13〜15才の2つのクラスに分けられる。

◎ソ連（70年より実施）

全ソ連リーグ男女8チームが年5回のリーグ戦を行う。

1回目……8チームリーグを一地方で行う。15日休養して、そのあとで2回目が始まる。4チームづつ二つの地方に別れてリーグを行う。

同じような方式で五回実施するのでしたがって年間一チームは35ゲームを行うことになる。その下に全ソ連A、Bリーグがある。その他各共和国にも1、2、3部リーグがあり、その上位が上級リーグに入れる。

ジュニアー選手権は各市町で6チームづつリーグを行い地方予選を実施し、そのチャンピオンが集って、共和国でさらに予選を行う。その代表17チーム（15共和国、モスコー。レニングラード各1チーム）が集まり、6・6・5の3グループでリーグ戦をして、上位2チームが選抜され、6チームで決勝リーグ戦を実施してチャンピオンを決定する。

×

これらの上部リーグに属する各クラブは、ヨーロッパ球界における名門の地位を築きあげており、シーズン中、国際交流も活溌である。そしてナショナルチーム同士の対戦とは異った球趣をファンの間に高めさせているようだ。【写真は今年の西ドイツ選手権決勝を伝える専門誌】

遠征旅日記から

渡辺俊夫
（日本選手団渉外役員）

今回の欧州遠征で日本選手団は渉外・通訳として渡辺俊夫氏（東大大学院生・フランス生まれ）を委嘱、選手団に同行してもらったが、遠征が成功裡に終ったのは渡辺氏の活躍に負うところが大きい。
遠征の〝うらばなし〟を同氏に寄稿してもらつた。

今回の遠征の各国の協会の方の日本チームに対する気の配りようは大変なものだった。ルーマニアでは、協会の重要メンバー総動員という感じてあった。特に重要なトレトナーで我々と対話しなかった人はほとんどいないのではないだろうか。それだけに地方のクラブチームのトレーナーなどからは中央に対する文句なども聞け、仲々面白かった。いろいろな人の中でも、ネデフ、パナ、テルマン各氏は本当に親味になって面倒をみてくれた。我々が最後にルーマニアナショナルチームに二連勝した時は、まさかそんなことは、と思っていたのだろう。ナショナルトレーナーであるネデフ氏やパナ氏はガックリして真険な顔つきであったがナショナルと直接関係のないテルマン氏（ルーマニア最強チームステアワのトレーナー）などはニヤニヤして喜こんでいたし、シビウのクラブのトレーナーもわざわざやってきて感激の面もちで握手を求めてきた。

我々がルーマニアに着いたはじめのうちは丁度果物のない時期でサラダなどもシナシナになったのがほんの少ししかなく弱った。ところがロブリンという、それこそ本当の片田舎で試合をやった後のレセプション。ここのは全旅行中もっとも豪勢な食事だった。ツイカという梅じようちゆうみたいなのや、地元でつくったワインやらをどんどんついでくるし、なんでもかでもその分量の多いこと。我々のために特にそこで飼っている豚を血祭りにあげたと聞いたので「随分太ったのを一匹やつつけたんでしようね」と聞いたところ「一匹？とんでもない何匹もですよ」といわれた。ここで最後に苺が出た。はじめての果物らしい果物だ。日本選手は苺のどんぶりを手もとへ引き寄せ小皿の砂糖をその上へぶつかけパクパクムシャムシャとやりだした。その時はさすがに一年中いつも新鮮な野菜や果物のある日本はいいなと思った。しかし果物難も六月を過ぎた頃には解消された。食事に対する不満もほとんど無かったと思う。どこへいっても米とサラダをお願いしますと言ったので御飯が食べられた。皆もだんだん馴れてきて、そのうちに御飯は残してもパンは食べるようにさへなってしまった。ただ羊の柔かいチーズだけは皆アウトのようだった。ブカレストではあるときホテルの人が、いつも肉であきているでしようから今晩は魚にしましたといったので、我々一同期待に胸ふくらませて坐っていると、でてきた、でてきた。いやすごい魚だった。どうもナマズかなにからしかったが、いやその油っこいこと泥くさいこと。

宿舎のほうもいろいろだった。一流ホテルもあれば、山小屋あり女子寮あり、共産党幹部用宿舎といろのまであった。これはプロエシテという所だったが、昼寝の時間でも入口の鍵をしめてしまうので出入りには不便だったが用心はよかった。これと正反対だったのがシビウ。汚ない学生寮みたいな所でドアに鍵がなく、たいてい番人が廊下に一人、ボケーッと坐っていたが、ついに番人のいない時ドロボウに入られてしまった。この他ルーマニアのスナゴフやベオグラードではスポーツセンターにも泊った。スナゴフのスポーツセンターは湖のほとりにある周囲と全く隔絶された所で、一番近くのたった一軒の居酒屋兼パン屋兼雑貨屋兼駄菓子屋（通称スナゴフ銀座）まで歩いて二キロ近くあった最寄のバスの停留所までなんと六キロ以上もあった。勿論我々は貸切バスだったので歩かだにすんだが……。選手に一番印象深かったのはドイツのハスロホでの民宿であろう。ここでは一人一人皆別の家庭に泊まることとなった。皆やや緊くなったようだったが、インターナショナル言語「ゼスチャア」等もフルに使ってなんとか切り抜けたようだった。別れの時は各家庭の人達皆、実の家族との別れのようであった。人情に国境はない。

行く先々、日本チームは人気の的であった。特にユーゴではそれがはつきりと判った。タシマイダン杯では日本の他にもソ連、ハンガリー、ルーマニアと参加していたが、人気の上でも、もてなし上でも日本チームは別格であった。ベオグラードでは日本チームにつけてくれた通訳だけが美人で、他チームは男かオバサンだった。ザビドビッチは木材コンビナートのある田舎の町。人口は八〇〇〇人とかいっていた。各国チームを乗せた列車が駅につくと、雨が降っていたにもかかわらず大勢の出迎えの人。町中の人が出てきたんじゃないかと思われる程。駅から宿舎までブラスバンドを先頭にゾロゾロ歩く。勿論日本チームが先頭だ。ここに滞在している間、一寸でも外をブラブラしていようものなら、たちまち囲まれてサイン、サインとねだられる。中には腕を出してここにサインしてくれという女の子までいた。何しろ人口八〇〇〇人の町だというのに試合入場人員五五〇〇人以上というのだからその熱狂ぶりがしれよう。

このタシマイダン杯を通じて最高の一戦は日本対ユーゴスラビアであった。出発当時はユーゴの実力についてそれ程知らされていなかったが、ヨーロッパではどこへいってもユーゴの評価は高かった。二月の世界選手権はユーゴのものだという人も多かった。とにかく世界第一級であるのにまちがいはない。タシマイダンも優勝といろ下馬評であった。試合がはじまり、日本がリードしていても、全体の雰囲気としては、意外とよくやってはいるがすぐに駄目になるだろうという感じであった。それはそうであろう。前日ソ連に大敗しているのを皆みている。ユーゴの選手も負けるとは思わなかったのだろう。ところがどっこい日本チームはすばらしい。前日のソ

連戦ではやる気がありすぎ、皆真青な顔でぎこちないプレーをしていたのがほぐれ、気力にあふれたすばらしいプレーが次々と続いた下里選手の驚異的な七メートル防禦をはじめとして、全員デフェンスでもよく動き攻撃も相手の乱れをたくみについていた。僕も一点入るたびに我を忘れてベンチから飛びあがってしまった。スコアをご覧になって一点差なのでシーソーだったのではないかと思われるかもしれないが、そんなことはない。完全な日本の圧勝であった。

世界選手権で勝ったわけではない。遠征途中のほんの一試合にすぎないからかもしれない。しかし僕はこの一試合を共に体験することができ、今度の遠征に参加して本当によかったと思い、また参加できたことに大きな誇りを感じることができた。

最後にひとつだけ。ドイツ協会の事務局長が次のように言っていたことをつけ加えておこう。「今まで何人もの日本人の方が私の家へみえたが唯一人として手紙をかいてくださる方がいらっしゃらない。もし言葉が苦手だったら日本語で書いてください。日本語が読めないのはこちらが悪いのだから我々の方で日本語の出来る人を探しますよ。もしそれが駄目でも手紙をもらったというだけで友情を感じるじゃありませんか。」(完)

☆☆☆☆☆☆☆

海外トピックス

藤本　強

各国、活気あるスタート

ヨーロッパにおける室内（7人制）シーズンが幕をあけた。

口火は9月9日からスウェーデンで行われたバルチック国際トーナメント（スウェーデン、ソビエト、ポーランド、デンマークら参加。詳報未着）だが、5ケ月後にミュンヘンオリンピックへつながる第7回世界男子7人制選手権が開かれるとあって各国とも意欲に満ちあふれたスタートを切っているようだ。

2年ぶりで再開された第11回ヨーロッパカップにも22ケ国がフルエントリー。9月15日リスボンで行はれたシタルディア・シタード（オランダ）×アトレティーコ（ポルトガル）を第1戦に、10月中に2回戦8カードを終了しベストエイトが決められる。今年はこのあと来春3月中旬まで大会は中断され、3月に準々決勝、4月上旬に準決勝を行う。そして決勝は4月18日または25日に争われる予定だ。

なお、第10回女子ヨーロッパカップは11月に開幕。決勝は来春4月4日の予定である。

フランス、第1次候補発表

世界選手権のホスト国フランスはこのほど、この大会に出場を予定される選手の第1次名簿（20名）を発表した。

▽GK　フェリナク、L・プラーニュ、ボリエス

▽FP　R・リカルド、M・リカルド、ブルネット、アグーニュ、ガランド、タイレフェール、ドリュアイス、ニタ、シャルメル、ゲルメン、ファイエ、A・セレントカリテ、ポルテス、ティエリィ、ベデル、オルシニ。

このメンバーによる第1戦は10月29日ブルガリアの間に行はれる。

アフリカ諸国の近況

世界選手権の予選にアフリカ地域からエントリーしているのはモロッコだけが、このことひとつでアフリカ諸国のハンドボール活動が低調だとはいい切れない。各国の最近の成績をのぞいてみると、アフリカ諸国も、ミュンヘンをめざし着々とその強化を進めていることが判ろう。

アルジェリア	16—15	モロッコ
アルジェリア	14—14	チュニジア
チュニジア	16—14	モロッコ

この三ケ国の成績は今春モロッコのラバに於いてマグレブ連盟（北アフリカ4ケ国）の創設の際に行なわれたものであり、ここにはスペインから審判団と、西ドイツチェコ、ルーマニアから招かれたコーチとが大会に臨んだ。これらのコーチはそれぞれの国にコーチをしており、北アフリカの諸国が強化になみなみならぬ情熱を傾けていることを示している。いずれはヨーロッパカップにも出場（かってモロッコが出場している）することにもなろうし、地理的にも我が国より恵まれており、将来の強敵になる可能性を十分に含んでいる。

東ドイツの中東遠征

東ドイツでは、今年ナショナルチームを中東に派遣し、この地域に於けるハンドボールの普及と発展につとめている。

このチームはレバノン、シリア、エジプトで試合をしている。

東ドイツ	35—12	レバノン
東ドイツ	46—19	シリア
東ドイツ	43—19	SG・グタクラブ（シリア）
東ドイツ	26—16	アラブ連合
東ドイツ	25—12	アラブ連合
東ドイツ	22—16	アラブ連合

結果はいずれもトップレベルにある東ドイツの圧勝におわっているが、ハンドボール普及の芽がイスラエル・アラブ連合だけでなく中東の地域にも拡がりつつあることが判ろう。アジアといっても、東と西に遠くへだてられているが今後のアジア大陸という地域の中には、これら諸国の抬頭もありうることを記憶しておかなければならない。

強豪集めた国際大会
11月、ルーマニアで開く

ルーマニアのティミソアラ（今夏、訪欧の全日本が立ち寄って2試合を行った所）で11月22日から26日まで、来春の世界選手権でAクラスとみられる7ケ国による国際大会が開かれることになり、ファンの注目を集めている。

参加を予定されているのはデンマーク、ハンガリー、ユーゴー、ポーランド、フランス、スウェーデンと地元ルーマニアがA、B2チームの計7ケ国8チーム。

大会は、4ケ国づつ2組の準決勝リーグのあと、各組同位チームによって1位から8位までが決められる。

各国とも、来春の世界選手権で上位への進出が予想される強豪ば

かりで、この大会の結果は、世界選手権の成績を占ううえに欠かせない。大観衆の動員も期待されている。

ところで、7ヶ国のうちスウェーデン、ユーゴー、ポーランド、ハンガリーの4ヶ国は11月15日と29日に世界選手権の地域予選を行うことになっている。

そのあいまをぬって、こうした大会に出場するという感覚はちょっと日本では理解しにくい。予選免除のルーマニア、デンマーク、フランスはおそらくベストメンバーを送りこむだろうが、他の4国はどのような編成で臨むのか興味がもたれる。

ヨーロッパカップ展望

昨年、国際情勢の影響で流会を余儀なくされたヨーロッパ・カップトーナメント（男子）が9月15日から幕をあけた。

例年どおり各国のチャンピオンチーム（昨年冬から今年春にかけて行われた各国選手権の優勝チーム）が参加、顔ぶれは別掲のようになった。後援するのはフランスのスポーツ専門紙〝レキップ〟。大会はまず1回戦6カードを10月中に行いその結果2回戦へ進む16ケ国代表が決まるわけだが、実は本誌に連載している「世界ハンドボールの歩み」の中でもしばしば触れているように、ここからが「本大会」なのである。1回戦6試合を〝予選〟〝予備試合〟と呼ぶこともあるようだ。

さて、参加チームはさすがに各国のウィナーだけに名門揃いだが常連デュクラ・プラーグ（チェコ）パルチザン・プジエロバール（ユーゴ）などの姿が見えず、わずかだが新進の登場も目立って来ている。

試合は決勝（来春4月）を除いてはすべて2回戦制、ホーム・アンド・アウェイで行われるため大会の展望は困難だが、前回優勝のステアウア・ブカレスト（ルーマニア）を筆頭に、SC・ディナモ・ベルリン（東ドイツ）、VfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）、RK・クルベンカ（ユーゴ）テトライン・プレソフ（チェコ）それにソビエト代表（未定）などによって優勝が争われる公算が大きい。

このうち、抽せんのいたずらでグンメルスバッハとプレソフが1回戦（＝予選）で顔を合せることになっている。本誌がお手元にとどく頃には結着がついているハズだが、決勝戦を争ってもおかしくない両者が、早々と対戦してしまうことにファンはがっかりしていると伝えられる。

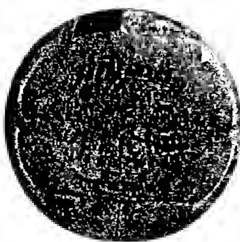
このほかにも、コペンハーゲン×ブタペストという好カードもあり、今年の1回戦はいつになく激戦が並んだ。

各チームの攻守の要となっている選手は、各国ナショナルの当然主力だが、特に本命・ステアウア・ブカレストはグルイアをはじめガツ、ゴラン、マリネスク、ポペスクらルーマニアの中心選手をずらりと揃えている。このほか、グンメルスバッハにはフエルドホフコスメール、プレソフにはオルバス、コペンハーゲンにはニールセン、モーテンセン、ベルリンにはハンセン、ヘラスにはB・ヨハンソン、マルセーユにはコンスタンチーニ、バルセロナにはモレナ、バルセールらヨーロッパの花形プレイヤーたちが所属している。

一昨年の決勝、ステアウア・ブカレスト×デュクラ・プラーグ戦はフランクフルトで超満員一万という大観衆を集めて行われたが、今年は2年ぶりの再開、しかも世界選手権の行はれるシーズンとあって例年以上の活況が予想される

ヨーロッパ杯(男)各国代表

レブスキ・スパルターク・ソフィア（ブルガリア）
HG・コペンハーゲン（デンマーク）
SC・ディナモ・ベルリン（東ドイツ）
VfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）
UK・51・ヘルシンキ（フィンランド）
SMUC・マルセーユ（フランス）
H・V・シタルディーア・シタルド（オランダ）
フィムキカフェラーグ・ハフナルフャルダール（アイスランド）
ハポエル・レフォボス（イスラエル）
R・K・クルベンカ（ユーゴースラビア）
HB・デュデリンゲン（ルクセンブルグ）
B・S・I・ベルゲン（ノルウエー）
ユニオン・HC・ザルッブルグ（オーストリア）
KS・スポニーア・ダンチヒ（ポーランド）
アトレティーコ・リスボン（ポルトガル）
ステアウァ・ブカレスト（ルーマニア）
ヘラス・ストックホルム（スウエーデン）
グラスホッパーズ・チューリッヒ（スイス）
CF・バルセロナ（スペイン）
テトラン・プレソフ（チェコスロバキア）
ホンヴェツト・SC・ブタペスト（ハンガリー）
ソ連は未定


ミカドハンドボール
日本ハンドボール協会公認球


ミカド商会
東京・豊島・巣鴨・7丁目1696
TEL(941)2635・6592

特別研究論文

ハンドボール発祥はデンマーク

馬場太郎
（桃山学院大学教授）



桃山学院大学・馬場太郎教授（前日本協会副会長）は去る9月7日広島工大で開かれた第20回日本体育学会において「デンマーク王国・国技としてのハンドボール」という注目すべき発表を行った。

馬場教授の発表によると、近代ハンドボールは一九〇〇年代に入ってドイツで発祥したというこれまでの説に対し、一八九八年（明治31年）すでにデンマークが競技規則を制定しこの競技の普及、研究につとめていたというものである。本誌では、馬場教授から特別寄稿を受け、発表の概要をお伝えしたいと思う。（写真も馬場教授提供）

ホルガー・ニールソン氏（デンマーク）

×

I、はじめに

ハンドボール（11人制）が我が国に渡来したのは一九二二年（大正11年）。ドイツからその前年帰国された故・大谷武一先生（当時東京高師教授）が東京で行われた体育学会主催の夏季講習会でその方法などを紹介された時を日本のハンドボールの"紀元"とするなれば本年で47年、約半世紀近くになります。

この間、一九三六年（昭和11年）のベルリン・オリンピック大会には正式種目として採択され、ドイツほか5ヶ国の参加があり、ドイツが優勝したことは、既に御承知のとおりです。

爾後今日迄、世界の大勢は11人制から7人制に移行し、一九七二年（昭和47年）のミュンヘン・オリンピック大会は7人制で行われることとなり、すでにミュンヘンでは一万人収容の大室内競（球）技場の設計も終って着工されております。

IHF加盟国43ヶ国、競技人口200万人を越すこの競技の前途は益々洋々たるものがあります。私はこのハンドボールの日本渡来以来特別の関心と興味を持ち続けて現在に到っておりますが最初、教えられた事は、ドイツの国技であり同国が発祥地であるという事でした。数多くの文献にも記載されて現在も尚唯一人としてこの事に疑問を持たないでせう。私はたまたま昨年8月から、本年2月中旬迄、西独及びデンマークに短期留学の機会を得ましたので、寸暇をさいて欧州各地を遍歴しての国際試合を見学し、彼等の実態を少しでも把握したいと考えて、東奔西走の多忙な取材旅行に明け暮れましたがたまたまある機会に、実際ハンドボールの発祥地はデンマークであるとの事を耳にしましたので、これは聞き捨てならぬと、総ゆる手段を講じて次の事実を探究して確実な年次の事実をつきとめて参りました。

このため、本拠地の西独から前後6回デンマークに渡り、各地の関係者に会い、歴史や外史を確めて正しい事実の取材にあたりました。

特にデンマーク協会長ピーター・ソン氏、同事務局長エリック・ラーセン氏夫妻、ワイラー体育大学々長ブャーン・ハンガー氏、オルラップ体育大学々長アーネ・モールテンセン氏及びデンマーク領事館名誉領事F・オラムダ氏の諸氏からはいろいろと貴重な話やデーターを集めることができ、オラムダ氏が取材の便宜を計って下さったことも大いに助かりました。

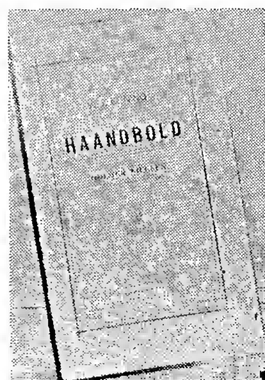
さて、調査の結果、デンマークのハンドボールの創始はドイツが「トーアバル」と称して始めた一九一五年より17年以前の一八九八年であることが判りました。

場所はコペンハーゲンの北方5Kmの地点、オートハロップ（注・現在はコペンハーゲン市に合併されておりコペンハーゲン駅より北へ二ッ目の駅）のラテン・ハイスクールの体育教官ホルガー・ニールソン氏（一八六六〜一九五五）の発案したものと歴史は伝えています。

同氏は当時陸軍中佐でもあり視学官の資格も持っていました。

最初は体操と球技を担当し、のちに水泳、射撃、体操、ハンドボールの各協会々長となった人なのですが、彼の名をひときわ高いものにしているのは「ニールセン式（HN式）人工呼吸法」の発案者であるということです。

日本においてもニールソン氏の人工呼吸法は人口にかいしやされ



世界最古のルールブック（一九〇六年デンマーク）

ており、その名は熟知されているが、思いもかけず彼はデンマークのハンドボールの父であり、世界のハンドボールの父であったのです。

II、ホルガー・ニールソン氏の履歴と業績

ニールソン氏は一八六六年十二月十八日コペンハーゲンに生まれ一九五五年90才の高令でコペンハーゲンにて逝去。

一八七八年三月、オークス出身のテイラ・マリー嬢と結婚。

一九二〇年から一九四五年までスポーツ視学官として活躍し、この間、一九二七―一九三〇には国立体育研究所々長。一九一六―一九三〇はコペンハーゲン射撃協会のチーフをつとめている。

また一九一一―一九二八はデンマーク水泳、生命救助協会の議長一八九八―一九三八は学校体育スポーツ委員会の議長を歴任した。

このほかデンマーク赤十字、デンマーク水泳、生命救助協会、デンマーク体育協会 デンマークハンドボール協会 デンマーク婦人体育協会名誉会員などに推され、著書として「水泳」「ハンドボール」「生命救助」などがあり、「ニールソン式人工呼吸法」の発案者であることはすでに述べた。

彼がつとめていた、というよりハンドボール発案の場ともなったラテン・ハイスクールというものの背景はデンマークの義務教育法は他のヨーロッパ諸国にさきがけて、一八一四年から施行され、7月革命の影響により国民教育の促進、特に国民の大部分を占める農民教育の必要性が各方面に叫ばれましたが、実際に教育に参加したのは牧師や役人など、ごく一部の国民の子弟で、また教育そのものもラテン語で授業が行われるエリート教育でありました。

III、ニールソン氏を助けたエアンスト氏の履歴と業績

世界最初の試合は一九〇四年

ニールソン氏とともにデンマークにおけるハンドボール創始に大きな足跡を残した人としてR・Nエアンスト氏をあげておかねばなるまい。

エアンスト氏は陸軍中尉。体育教官としてヘルシンガー・ハイスクールから、のちにニューボー・ハイスクールに転じたのだがヘルシンガー・ハイスクール時代に少年の遊びにヒントを得てハンドボールに似た球技を考案し実施していた。一八九七～八年頃のことだ。

そして、視学官ニールソン氏と協議の上、一九〇四年オートロッフでラテン・ハイスクールとヘルシンガー・ハイスクールとの間にこの国最初のというより世界最初の試合を交えた記録が残っている。

この試合を契機にニールソン氏は競技規則の作製に専念して一九〇六年に発刊した。

惜うに歴史にはニールソンの名が浮きぼりされているが、陰の人としてのエアンストの功績も高く評価されるべきと思はれる。

IV、草創期の活動

～最初は16人で競技～

一九〇四年の初試合、さらにルールの制定などその活動はニールソン氏を中心に活潑な動きを示した。

すなはち同年シーランド（Sjaelland）のソウオ（Soro）で第1回デモンストレーションゲームを行い広く一般に披露、つづいてユーランド（Jylland）のアナス（Randers）で第2回デモンストレーションゲームを行っていつそうの普及につとめた。



世界最古のハンドボール試合写真（一九〇四年・アナス）

この2回のデモンストレーションは大きな反響を呼び、デンマーク国内にハンドボール発展の基礎を築きあげた記念すべき行事であった。

写真（左上）はアナスの試合の模様で、審判員は正装し、威儀をただしストローハットをかぶっている。世界最古のハンドボール試合のこれは貴重な写真といえよう

爾後、関係者は種々研究をすすめ、ルールブック（前頁、右下写真）を最初に出版刊行したのは一九〇六年であった。

当時の競技者数はFW7、HB5、FB3、GK1の計16人で競技場の広さは30ｍ～50ｍ、ゴールは2ｍ～3ｍ、ゴールエリアは4ｍ～7ｍの長方形であった。

競技者数、競技場の広さ、ゴール、エリアは遂次改められ、現在（注・11人制）にやや近いルールになったのは第一次戦争後であった。

一九一八年国立体育研究所の体育教官フレデリック・クヌッドセン氏により室内ゲームのための競技規則が発表され、室内ゲームは首都コペンハーゲンで盛んに行はれた。

もちろん11人制（屋外）の普及も順調で、一九二〇年頃にはすっかり軌道にのった。

注目すべきは一九一一年以降のデンマーク国内ハンドボール競技の開催に際してはほとんど一千以上の観衆が集り、大変な人気を呼んだことだ。

一九二一年デンマークスポーツ連盟のオールド・ボーイズ達の提唱によりコペンハーゲンでハンドボールトーナメントが行われ15チームが参加、YMCAが優勝した。

この大会はすべての面で成功しこれに気をよくし、このトーナメントは年々規模を拡充していった

V、諸国への普及

デンマーク国内の充実が進められる一方、ハンドボールは次第にデンマーク以外のヨーロッパ各地へも普及されていった。

デンマークにおけるこの球技の発展を聞いて実施した国もあれば起点を異にして同じような球技を考案していた国もある。

例えば20世紀の初め、由来は審かではないがアイルランド、北米ウクライナなどの諸国にもハンドボールに類した球技があったと伝えられ、また一九〇五年チェコではプラハ大学教授（氏名不詳）の発案によるハゼナ（Hazena）と称する民族球技があった。これ

はハンドボールとは凡そほど遠いルールであった。

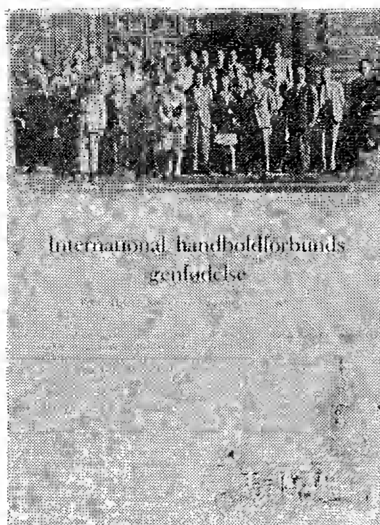
スエーデンでは第一次世界大戦後、ハンドボールの第一歩を踏み出した。

すなはち一九二一年バルチック海の海軍基地カールスクローナの海軍スポーツクラブでバスケットボールの知識の応用された型で始められ、一九三一年スェーデン協会が設立されている。

北方の国**ノルウェー**とともに風土上の関係で屋外より屋内に移行されこの国独自の発展を遂げた。

これは数多くの体育館があったことが原因で、青少年層の活溌な運動に対する意欲の然らしむるところであって、一九三九―一九四八年の10年間にその普及は8倍にもなっている。

とりわけ技術的、戦術的に室内ハンドボールは一大発展を遂げている。



第２次大戦後新しいＩＨＦの結成

VI、ドイツの発達の歴史

ところで、我々が今日までハンドボールの祖国として考えて来た**ドイツ**のハンドボール史についても少しふれておこう。それはデンマークにおける草創の記録と比較するうえにも重要である。

ドイツにおけるハンドボールの胎動は一九一五年頃トーアバル(TorBall)の名称でベルリンの婦人体育指導者マックス・ヘイジュア氏(Max Heisure)らが普及につとめていた球技にあるというのが定説である。

ヘイジュア氏たちは一九一七年までの第一次大戦中、男子が戦場へ行ったあとに残った婦人達の体育活動としてトーアバルを指導していたものである

この球技は競技場の広さが50M〜20M、ゴールは2・5M〜2M、エリアはゴール中心より半径4Mによって行はれた。

ハンドボールと名付けられたのは一九一七年十月二十七日ベルリンの体育会議婦人委員会の席上で同時に新しい競技規則書が提出された。

大げさのようだが、正しく表現するならばこの日がドイツハンドボールの生年月日である。

デンマークにおいてオートロッフでラテン・ハイスクールが試合を行ったのやデモンストレーションがソウオやアナスで催されたのが一九〇四年であったことを思い出していただきたい。

さて、ドイツにおけるハンドボール界はその後大きな変ぼうをとげることになる。ドイツ国民は、第一次大戦終了同時にスポーツや競技のために多くの余暇をもつようになり、婦人ハンドボールの規則は大幅に変更された。当時のドイツの規則はゴール2M×4M、ゴール・エリアはゴールの中心から半径8Mで三秒のルールはあったが三歩のルールは許されていなかったし、又60M×90Mの大きさのグラウンドでは到底無理であったので三歩の規則を制定し、一九二〇年春初めて男子のハンドボールは段々下火になった。

当時ベルリン大学の体育教師カール・シェレンツ(Carl Schelenz)は、このハンドボールを専門技術的に変形し、ハンドボールを競技化し、大学のスポーツ講座に導入し、普及に努めた、大学の数へ子達がその意思をついで、外国にこの競技を紹介した。一方室内ハンドボールについては一九二一年以来ドイツスポーツ官庁、ドイツ体育協会、ドイツ労働者の体育スポーツ連盟のドイツハンドボール選手権大会をもったが、この三つの団体は夫々違った規則であったので、外国での普及のため一九二七年国際的規則をドイツ官庁のルールを基にして立案された。

ドイツでの最初のフィールドハンドボールの国際試合は一九二五年九月十三日労働者の体育スポーツ協会がベルギーと対戦し12―20で敗れている。

一九三四年デンマークのフィールドハンドボールチームが来独した際、ドイツの懇請により室内ハンドボールを行ってみせた。そして室内用シューズを提供している

さらに同年八月二十六日ドイツがコペンハーゲンに遠征しているが、この時も11人制が主。当時ドイツは室内用のシューズの用意がなかった。

VII、国際的な統一へ

このようにしてデンマークで考案されたハンドボールは国際的な球技として発展の芽を順調に成長させていった。

もちろん、デンマークにおける発展を聞いて実施している国もあれば、起点を異にして同じような球技を考案していた国もある。そして夫々独自の規則を採用していたため国際試合の実施はなかなか難しかった。そうした期間はかなり長い年月にわたった。



第一回国際審判講習会を（１９４７年デンマークで開く）

一九三二年（昭8）、デンマーク、スウェーデン、ドイツ、オーストリアの四ケ国で国際ルールの協定に踏み切り、一九三四年（昭9）、八月、ＩＨＡＦ（国際アマチュアハンドボール連盟）はストックフォルムで会議をもち室内（7人制）及び11人制（フィールド）の両ルールを統一することにこぎつ

けた。

かくしてデンマークで考案され発案したハンドボールは国境を越えて〃世界のスポーツ〃として飛躍の道を歩むことになる――。

なお、IHAFは、一九三六年ベルリン・オリンピックでハンドボールが実施され6ケ国が参加（11人制）、さらに一九四〇年（昭15）東京で予定されたオリンピックでも実施が確定していたが第二次大戦のため東京が返上、これによって国際ハンドボール界の活動も休止状態になった。

第二次大戦終了の翌年、一九四六年七月十一月から三日間コペンハーゲンで新国際機関・IHF（国際ハンドボール連盟）の初会議が開かれた。(前頁左上写真)

会議には8カ国が参集し、新らしいIHFの誕生を決議、またその翌年一九四七年八月コーランドのワイラー市の体育大学で8ケ国29名の参加を得て技術・審判のシンポジウム（前頁右下写真）を開催し、世界のハンドボールの発展のため努力した。

Ⅷ、デンマークの現在の状態

デンマークは、本土（シェーランド、フェイン、ユーランド半島）グリーンランド、フエロー諸島その他大小約五〇〇の諸島からなり、本土は、九州本土よりやや大きい位の面積ですが、人口僅か四七一万足らずにもかかはらず、協会の正式登録者をみると西独の一三七人に一人、スウーデンの一七一人に一人、日本の一四二二人に一人のパーセンテージに比較し、実に五〇人に一人の密度だ。驚くべき数字である。チーム数も男子は一、九九九チーム、女子一、一六一チーム、ジュニア四八三四チーム総計七、九九三チーム計九五、九二八人であるが、勿論登録者以外にこの国技に親しんでいる一般人はこの数に匹敵する以上と見られている。



今年のデンマーク女子ナショナルチーム

これらのチームの内、トップクラスのリーグは9月下旬から3月末迄約6ケ月各地で行はれるが、一九六八～年一九六九の年間行事によると一、八五六のゲームが全土で消化されている。超特級クラスは第1部の10チーム。この下に第2部10チーム第3部イーストで10チームが、ウェストで10チームが、第1部10チームずつランクされ、女子では第1部10チーム、第2部イーストで10チーム、ウェストで10チームがランクされている。

尚イーストの部はシーランド、ローランド、ファスター、コペンハーゲンで、ウェストの部はユトランド、フインと区別されているそのうち、男女共最強チームと思はれるのは、コペンハーゲンのクラブで下は少年少女のチームから上は白髪の老人迄クラブ員は練習日には家族総ぐるみでホール（コペンハーゲンの市民体育館）で練習に汗を流し、スタンドから声援している、なごやかな風景が見られる。

かくして全国民に親しまれ、育成された各チームから逸材が発見され、男女夫々のナショナルチームが編成されるのであるが、平時は夫々所属のチームで、リーグ戦に参加し技を競うのであるが、他の夫々の一般選手はナショナル選手に追いつき、そのメンバーに加はることが、彼等の最終の目的らしく各チームのリーグにおける真剣さは、日本では見られぬ激しさがある。国際試合で集まった選手達はナショナル・チームとして又チームの一員として、すぐ結合融合して有機的に動く。彼等選手達は一寸も「ギコチ」なさや遠慮もなく精神的にも技術的にも実によくやっている事実は、誠に立派なものとつくづく感心させられた。

この事はスェーデンでも西ドイツでも同様な事が言い得る事であるが環境になじみ、順応性を多分にもつ彼等が全く羨ましく感じられた。

さてデンマーク男女チームのドイツとの試合の結果は一九六〇年から通算して女子は昨年12月14日フレンスブルグで10―14で敗れたので9試合3勝5敗1引分け、男子においては一九三八年からの通算16試合で、本年1月25日ベルリンで22―25で敗れたので、7勝7敗2引分けでタイの戦績である。

尚身体的条件の対独比較はナショナルチームで身長はデンマーク184・6、ドイツ185・5、体重81・6、83・0、競技歴は14年と12・7年。女子は身長168と168・9、体重60・5と60・6競技歴が16と16・6年。競技歴だけはデンマーク男女が長い結果が出ている。

以上何かと書き綴ってきたが、私の言わんとするところは、ハンドボールの発祥地は、あく迄デンマークであり、現時点迄ドイツの文献のみにたより、小国デンマークに対する認識がおろそかであった事であろうと思はれる。日本に渡来して約半世紀になろうとしている時、ここらで世界のハンドボールの歴史を確認しておく必要を感じ敢えてこの発表を行ったものである。（完）

参考文献

▽ Handbold Bogen (Dansk Hand Ball Forbund)
▽ Palle Aagaard: Instruktionsbog International Handball Federation Handbuch
▽ Hallenhandball Weltmeisterschaft; Hand bold
▽ Deutsche Handball Woche
▽ Handbold Spilleregler Med Kommentarer for 7 mands Spil
▽ Hallenhandball, Berlin

馬場太郎氏は戦前、日本協会の発足期からハンドボールの普及、研究につとめられ、戦後は大阪協会、全国高体連、関西球界などの指導者として重きをなした。日本協会副会長、第6回世界男子7人制選手権（昭41、スウェーデン）の日本選手団団長などもつとめられている。現住所・豊中市千里園3の191

ハンドボールの歩み（第16回）

ディナモ・ブカレスト初優勝

グラスホッパーズ3位にくいこむ

ヨーロッパカップ編 ⑥

男子第6回ヨーロッパ杯選手権は1964年から1965年にかけて行なわれた。

1963年から1964年にかけての冬は第5回世界7人制男子ハンドボール選手権大会が1964年の3月にチェコで開かれたため、大会は行なわれていない。

この大会この歩みの中でも、59号に掲載しているように、ルーマニアが連覇して、1960年の大会で優勝して、世界からやや意外の感をもたれていたが、実力のほどを見せつけた。

この大会もチェコ——ルーマニアの激突と考えられていた。予想どおり、両者の準決勝リーグでの争いが文字通りの決勝戦となった。このヨーロッパ杯でも、これからしばらく、両者の対決が続くが、この大会では、やや意外な展開になり、チェコのデュクラ・プラーグが第一回戦でユーゴーのメドヴェスカク・ザグレブに破れるという番狂せが生じた。このチームはそのまま勝ちぬき、決勝でディナモ・ブカレストと対戦することになるのだからあながち番狂せと片ずけることはできないかもしれない強チームである。

ユーゴーは第4回大会でも決勝にパルチザン・ブジェロバールを送っており、この当時から、なかなかの強国ぶりをうたわれていたのである。

この大会もやはり前回と同様に準々決勝、準決勝は二回戦方式を採用している。

この大会はディナモ・ブカレストが前回に続いて決勝に進出し、初の栄冠をルーマニアにもたらすことになる。

参加国は前回より一チームへり21チーム

この回からはというより、第5回に特例的に設けられた前年度優勝チームの特別出場がなくなり、21ケ国から21チームが出場することになり、前回に出場した国々はすべて出場し、新規の参加国はなしという結果になった。21ケ国であるので、一回戦16チームにするために予選5試合が行なわれた。

予選は比較的近い国々が対戦するという慣例があるため、ポーランド——ハンガリーという中級国同士の争いが早くも見られることになった。

▽予選

グラスホッパーズ・チューリッヒ（スイス） 27－9 フレマール・ブラッセル（ベルギー）
HBC・デュデリンゲン（ルクセンブルグ） 12－11 オペラティー・55・デン・ハーグ（オランダ）
US・イーヴリー・（フランス） 18－13 FC・ポルト（ポルトガル）
メドヴェスカク・ザグレブ（ユーゴー） 18－14 ラピッド・ウィーン（オーストリア）
ASZ・カトヴィス（ポーランド） 22－17 ホンヴェド・ブタペスト（ハンガリー）

それぞれ強いと目されたチームが本大会に出場することになったが、西欧圏の勝者いずれも大した力がなく、すぐに消えさるのである。特筆すべきは、ルクセンブルグがオランダ相手とは云え、初めて、この大会で勝ったことであろう。

ハンガリーのホンヴェッド・ブタペストはくじ運悪く、しかも勝連にもめぐまれず、緒戦で敗退してしまった。

デュクラ・プラーグ一回戦で破れる

▽一回戦

グラスホッパーズ・チューリッヒ 20－15 アトレティコ・マドリッド（スペイン）
US・イーヴリー 17－10 HBC・デュデリンゲン
アジャックス・コペンハーゲン（デンマーク） 34－19 ユニオン・ヘルシンキ（フィンランド）
RIK・ゲーテボルグ（スウェーデン） 25－20 フラム・レイキャヴィック（アイスランド）
ベルリン・SV・92（西ドイツ） 21－13 アリルド・オスロー（ノルウェー）
ディナモ・ブカレスト（ルーマニア） 17－14 ASK・フォヴェールト・東ベルリン（東ドイツ）
メドヴェスカク・ザグレブ 14－12 デュクラ・プラーグ（チェコ）
ブルヴェストニク・テイビリシ（ソ連） 32－18 ASZ・カドヴィス

強チーム同士の対戦が見られる

何といってもニュースは、前回の優勝チーム、そして世界選手権でも大活躍のチェコナショナルにも多くの選手を送りこんでいて、この大会でも本命とされていたデュクラ・プラーグが一回戦であえなくも、ユーゴーの新進チーム、メドヴェスカクの軍門に降ったことであろう。

第5回世界選手権でも6位のユーゴーのチームにチェコが破れるとは、一寸予想がつかなかった。

また、東ドイツのASK、東ベルリンもディナモ・ブカレストを相手にゆずらぬ戦いぶりを見せたこの両試合はこの選手権のトップチームがどこにあるかをはっきり示したといってよいであろう。

他は順当、やや意外なのは、スイスのグラスホッパーズ・チューリッヒが、この年は良く戦い、スペインのアトレティコ・マドリッドを破り、準々決勝に進出したばかりでなく、準決勝にまで進出したという番狂せがあったことで

あろう。またアイスランドのフラム・レイキャビックも健斗している。

グラスホツパーズ BSV・92ベルリンを破り、準決勝へ進出

▽準々決勝（二回戦方式）

グラスホッパーズ・チューリッヒ	16—15	SV92・ベルリン
グラスホッパーズ・チューリッヒ	18—14	SV92・ベルリン

グラスホッパーズ・チューリッヒ2勝

US・イヴリー	19—16	US・イヴリー
アジャックス・コペンハーゲン	39—16	アジャックス・コペンハーゲン

1勝1敗、総得失点55—34でアジャックス・コペンハーゲンの勝利

ディナモ・ブカレスト	26—11	RIK・ゲテボルグ
ディナモ・ブカレスト	24—11	RIK・ゲテボルグ

ディナモ・ブカレスト2勝

メドヴェスカク・ザグレブ	21—13	ブルヴェストニク・テビリシ
ブルヴェストニク・テビリシ	24—16	メドヴェスカク・ザグレブ

1勝1敗、総得失点37—37、抽せんでザグレブの勝ち

グラスホッパーズがベルリン・SV92を破るという快挙をやってのけた。ベルリンでの試合、やっと1点差で勝ち、まず大成功のチューリッヒは続く、地元での試合BSV92によく追いこまれながらも堂々と4点差をつけ、2勝して準決勝に進むという大快挙をやった。グラスホッパーズ・チューリッヒというクラブはサッカーなどでは世界的に知られているが、ハンドボール界では、他競技ほどは知られていない。スイス国内では良く征覇するチームではあるが、国際舞台では脚光をあびるところにはなかなかでてこられないチームであったが、堂々とベスト・フォア入りしたのであるからこれは大変に賞されてよいことだと思う。

スイスのチームは2回、4回目にそれぞれくじ運にめぐまれ、準々決勝に進出しているが、ここで大差で破れている。そのことから考えると、堂々と西ドイツのチームを破っての進出は、スイス球界のみでなく、世界球史の中でも特筆すべき事柄であろう。

デンマーク—フランスは順当な結果。ルーマニア—スウェーデンはディナモ・ブカレストの強さだけがめだった一戦となった。

メドヴェスカク・ザグレブーブルヴェストニク、ティビリシの一戦はそれぞれホーム試合で8点差の1勝。全く同一成績となり、抽せんで幸運はザグレブのものとなり、準決勝進出が決定した。

前回同様、東欧圏2、西欧圏2の準決勝となった。

デイナモ・ブカレスト強し

▽準決勝（二回戦方式）

ディナモ・ブカレスト	19—11	グラスホッパーズ・チューリッヒ
ディナモ・ブカレスト	棄　権	グラスホッパーズ・チューリッヒ

1勝でディナモの勝利、筆者の記憶では、この第二試合ルーマニアで行なわれる予定であったのが日程的な原因でチュリッヒが行けなくなり、ルーマニアの1勝による勝ちになったと覚えている。

アジャックス・コペンハーゲン	24—20	メドヴェスカク・ザグレブ
メドヴェスカク・ザグレブ	21—11	アジャックス・コペンハーゲン

1勝1敗総得失点41—35でメドヴェスカク・ザクレブの勝ち。

ディナモは圧倒的な強さを見せて決勝に進出した。この年がディナモ・ブカレストのもっとも油ののった年であったように思われる。その後、ルーマニア内には、ステアウァという強力チームが出現し、また国外では、他の国のチームが、補強するというようなこともあって、ディナモ・ブカレストも必ずしも楽な試合をもってはいない。

一回戦でデュクラ・プラーグを破ったメドヴェスカクはついに決勝にまで進出してしまった。

この第6回大会も前回同様東欧2ケ国によって決勝が争われることになった。この後も第8回大会を除いては、この形が続いている。

デイモナ・ブカレスト辛勝

▽決勝（1965年4月4日於パリー）

ディナモ・ブカレスト	13—11	メドヴェスカク・ザグレブ

強さを誇るディナモも、苦しみながらも快調な進撃を続けてきたメドヴェスカクの喰い下りにあって苦戦しながらも堂々の初優勝を飾った。ディナモ・ブカレストがこの第6回大会になって、初栄冠というのはいささか意外であるが事実である。国内の試合を勝ちぬき、しかも強豪揃いのトーナメントを勝ちぬくのがいかに困難なことかがこれによっても理解できよう。このあとディナモは一度も決勝に進出していない。この大会のトップチームはディナモ・ブカレスト、メドヴェスカク・ザクレブ、ブルヴェストニク・ティビリシ、アジャックス・コペーハゲン、デュクラ・プラーグ、ASK・東ベルリンであろう。（藤本強）

日本ハンドボール協会検定球

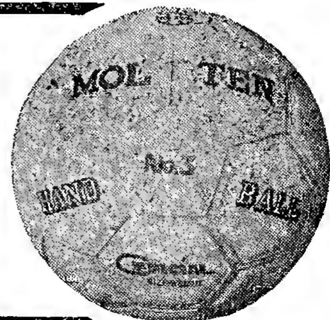
モルテン

亀甲型 ハンドボール



モルテンゴム工業株式会社

広島・東京・大阪



連載・ヨーロッパの技術研究(5)

サーキット・ハンドボールトレーニングについて

フロデ・ヘンリクセン博士
（デンマーク）

サーキット・トレーニングは合理的・合目的的な体力作りのトレーニングである。

ハンドボール競技に適したトレーニングと考えられるものを八つ用意して、これを行なうものである。これらは最初軽く、しだいしだいに強化していって、三回くりかえしてできるようにすることが必要である。

このプログラムを3回くり返すのを週に2回行なうことになる。

最初は軽く、トレーニングを十分に制御しておかなければならない。これは医学的見地からをそのようにすべきだとされている。

次には、体力作りを目的としてトレーニングをする。

筋力作りにはアレーを利用するのが良い。

サーキット・トレーニングはハンドボールの特殊練習と組み合せいつでも行なうことが望ましい。これによって体力を作り、筋力を増さねばならない。

またエリアを走ること筋力を強めることは重要なことである。

それと、健康管理には十分な注意を払わなければならない。

ハンドボールのトレーニングとしては以下のようなことが考えられる。

練習例

練習1　腰に力を入れないで自由に動かすようにすること。同時に敏しよう性をつける。またエリアを走る練習も同時に行なえる。20秒の最高限度とする。

練習2　ひじの柔軟さと伸長度の練習。同時に肩も筋肉を強めること。約15kgの負荷をかける。選手が疲れを覚えるのを限度とする。

練習3　ひじの柔軟さと体重を肩の関節にかけることの練習。こ関節の動きをよくするために、バランス台を置く。最高限度を30秒とする。

練習4　ここではこ関節とひざの関節の柔軟性を養う。30kgの重量をかけ、疲れるまで行なう。

練習5　ダッシュの力をつけるために重要な要素となる腹筋の練習。最低30秒でできるだけ行なうようにする。

トレーニングの時期によって、これらのトレーニングは変化させる。これらのトレーニングの間にはてきぎダッシュを入れ次に移るのがハンドボールにとって有効となるであろう。

練習6　5kgの荷重の丸い滑らかな棒をまわす。手首（ボールに最後の力を与える）の関節の強化。

練習7　腹筋、こ関節、背筋の強化。30秒間を最高限度とすると良い。

練習8　手首とひじの関節の強化練習。これは強いボールを投げるためにぜひとも必要である。30kgの荷重をかけ、疲れるまで行なう。

練習は有効に組み合せて、それぞれの筋力を強化していくことが必要となる。

〔注、これらはすべて会場でフィルムを見ながらのものであるので多くのものはどのような形のトレーニングであるのか不明なのは読者諸氏にとってはなはだ申訳ないと思っている。〕

実施例

まず最初はごく軽く行ない、最大限の力を出すものを2回連続して行なえるようになり、更にややおいて、最大限のものを3回続けて行なえるようにすることが一つの目標となる。

1963年の8・9月にこれをつくり、同年の11月にこれを実施した際に練習形のちは変更している。12月にこれを発表した。更にこれに加えて、走るトレーニングとして、エリアラインの走りを十分に行なう。

34人のハンドボールの世界選手権の候補選手にこれを練習させ、大いに効果をあげることができた。この中から、16人の選手がこの世界選手権に派遣されてきている。

これを施すにあたって、種々の

日本ハンドボール協会公認球
一番広く使はれて居る!
セプター号
サービス部
新宿区新宿2丁目電停前
TEL (341)2979・1016

望月運動用品KK
東京都墨田区横川橋4丁目6
TEL 本所(622)0746

観点から注意をくばった。16人のうち7人はほとんどのトレーニングをまずまずこなし、2人は完全にこなすことができた。6人は多くの種目をこなしたが、1人は心臓の関係で行なうことができなかった。

種々の計測の結果、明らかに筋力がつくことが確認された。

これを中心にした体力作りによって、すべての面の筋力で1957年の時の選手よりもすぐれていることが確認されている。また、これを行なうことによって、個々の選手の良い面、悪い面が明らかになり、それに対して、適切な処置をとることができるようになりトレーニングの重点も自ら明らかになってくる。

以下のような点を測定した。

1、脚の筋力
(a) 両足
(b) 左足
(c) 右足
2、腹　筋
3、背　筋
4、握　力
(a) 左手
(b) 右手
5、手首の力
(a) 左手
(b) 右手
6、腕　力
(a) 左手
(b) 右手
7、上腕の回転力
(a) 左手
(b) 右手

その結果は以下のような形となった。

1、脚の筋力
(a) 両足　二四八～九五〇kg
(b) 左足　二四八～四八〇kg
(c) 左足　一五三～三九〇kg
2、腹　筋　六五～　八七kg
3、背　筋　七七～一〇六kg
4、握　力
(a) 左手　四七～　八一kg
(b) 右手　六四～　六八kg
5、手首の力
(a) 左手　四二～　八二kg
(b) 吉手　三五～　九二kg
6、腕の力
(a) 左手　三六～一〇〇kg
(b) 右手　五一～　九七kg
7、上腕の回転力
(a) 左手　二一～　二五kg
(b) 右手　二五～　二九kg

サーキット・トレーニングはトレーニングの分野の中でも比較的歴史の浅いトレーニングであり、その理論も実験的段階にあるものが多くあり、今後大いに発展するものと考えられる。

特にそれをハンドボールに適したものにするのには、歴史の浅いサーキット・トレーニングの中でも特に歴史の浅いものだけに、多くの未解決の問題が山積している実状である。

多くの実験とそれに伴なう理論他の過程をふまないことには、ハンドボールにもっとも適したサーキット・トレーニングはどういう形であるべきかを判断することは不可能である。

これを施行している時に26才になる1人の選手を測定した結果、明らかに能力の低下をきたしていることが明らかになった。

これは一時的な現象であると解釈されたので、根本的にこのトレーニングシステムが誤っているのではないと確信している。

しかしながら、我々は医師の十分な健康管理の下にこのトレーニングを実施したので、このような場合も、確信をもった解釈ができたが、場合によっては、このような形の多分に実験的な意味を含んだトレーニングはむしろ有害である場合もあるので、十二分の健康管理の下に行なわなければならないと考える。

よりよいトレーニングシステムが確立される日が一日も早いことを望んで、その参考になればとこの発表を行なったものである。

(抄訳　藤本　強)

☆　☆　☆

こういうようなトレーニングのレポートを読んでみて、つくづく現在私達日本のハンドボール界のおかれている状況と世界のトップチームのある状態との間に大きな差のあることを痛感します。

チエコの大学でハンドボールの専攻生がかなりいること、幼児時代、少年時代、青年時代を通したトレーニングシステムの確立をめざしていること。

今回のデンマークのサーキットトレーニングに関する研究、しかも6年も前のことなのです。

本誌にも、こういう形の論文が早く作り出されて欲しいと思います。

×　×　×

今回の抄訳、どうもやっていてよく判らないところが多く、途中にも書きましたように、実物（フイルムの）がないことも一つの原因ですが、訳者自身のトレーニング理論の勉強のたりなさ、医学的な用語を知らないことなどを痛感します。今回のもの、おそらく、このトレーニングシステムを使おうと思っても、なかなか実行できないのではないかと思って、読者諸兄には、はなはだ申訳ないことと思っています。

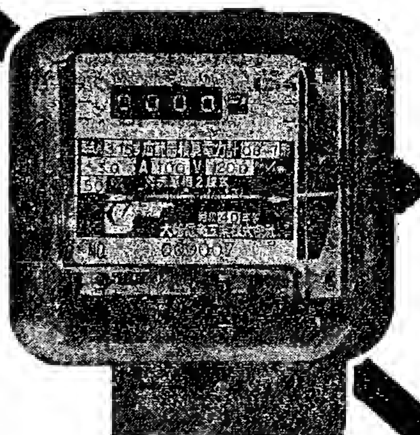
少しずつ勉強を重ね、よりよい抄訳を作るように努力をしますので、御了承下さるようお願いします。

種々の面での御意見、御叱正をお待ちしています。どしどしおよせ下さい。

確めてください！MIKASA
HAND BALL
完全球形に対する強靱さ、バウンドの正確さ、そしてダイナミックな弾性と抜群の耐久性――世界に誇る〈ミカサ〉の価値ある芸術品です！
日本ハンドボール協会検定球
ミカサ
明星ゴム工業株式会社
広島・東京・大阪・福岡

Osaki

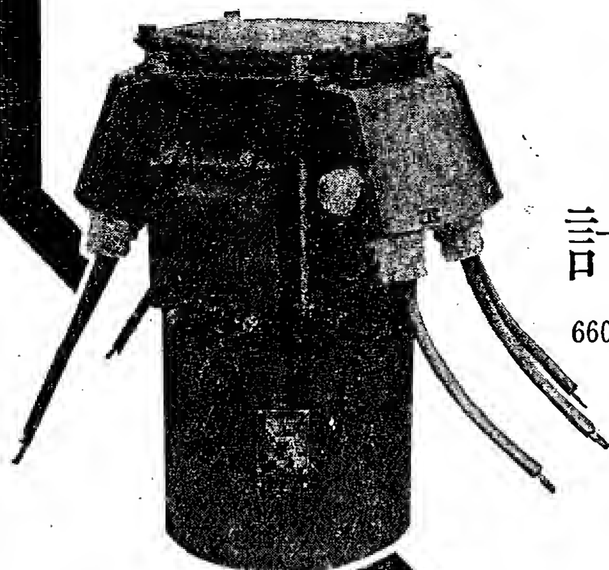
最高の確度と信頼度を持つ



電力量計

(単相用　OB－7形
3相用　OW－7形
精密用　OP－3形)

OB－7形広範囲単相積算電力計



計器用変成器

6600V用重予型PCT　PDN形

主要製品
電力量計・電流制限器
計器用変成器・電圧調整器
配電盤・分電盤・制御盤



大崎電氣工業株式會社

本社・五反田工場　東京都品川区東五反田2-2-7　電話東京（443）7171代表
蒲田工場　東京都大田区多摩川2－8－1　電話東京（732）6511代表
埼玉工場　埼玉県入間郡三芳村大字藤久保　電話 0492－61－1205

早大、慶大に3連勝
伝統の定期戦

第17回早慶定期戦は9月28日午後7時から高校、OB戦につづいて行はれた。

熱気にあふれた場内のムードにのって両校ともスタートからテンポの早い試合運びをみせたが早大は後半10分10—10から連続3点をあげ主導権を握り、その後の慶大の反撃を封いて3連勝した。通算成績は早大の10勝7敗。

▽高校戦（第11回）
早大学院 18（8—3 10—5）8 慶応高
通算成績・早大学院8勝3敗

▽OB戦
三田ク（慶）22（7—8 15—13）21 稲門ク（早）
通算成績・三田ク8勝6敗2分
—中止

▽現役戦
早大 15（8—7 7—5）12 慶大

得	【早大】		【慶大】	得
0	山本	GK	守田	0
7	尾島	FP	峯村	5
1	斎藤	FP	川上	2
2	武藤	FP	市河	2
1	加藤	FP	堂ノ口	0
2	高橋	FP	宮越	1
2	鈴木	FP	川島	2
15	(3)	7MT	(0)	12

審判・藤原（日体大出）高野（順天堂大出）

地方球信

少年団の親善試合

【久留米市（福岡）】5月にオールドボーイの試合を行って好評を得た久留米市協会が、こんどはスポーツ少年団の親善試合を企画、9月23日の第2回市選手権のプログラムに組み入れた。

対戦したのはBSスポーツ少年団（指導者・古賀信男）と市内高良内町を本拠とする内野体操スポーツ少年団（指導者・長野農夫男）。

両少年団ともこの日の試合を心待ちにしていたもので、特に内野チームは8月初旬に小学校5年生以上で編成されたばかり、毎朝6時から約1時間の練習でパスキャッチの初歩からはじまって最近ゲームができるまでになった。

試合は、中途から雨に見舞れたが少年たちはびしょぬれになりながらも一心にボールを追い、投げあった。父兄たちの声援も、いかにもスポーツ少年団の対抗らしい和やかなもの。同日行はれた一般男女や高校男女のどの試合よりもコートサイドを湧かせる熱戦を展開した。

高学年生を揃え経験にも一日の長あるBSスポーツ少年団が勝利を握ったが、試合終了後市体育協会から参加賞、久留米市協会からパンや牛乳、幹部候補生学校ハンドボール部員からお菓子などが健斗の両チームに贈られ、成巧裡に"第1戦"を打ちあげた（N）

東京でもクラブ競技会

【東京】東京協会では11月4日から駒沢屋内球技場で開く第7回東京選手権と併行して第1回クラブ競技会を行う。

昨年までは東京選手権を一般・クラブの二部に分けていたが今年からクラブ部門を独立させたもので、学連加盟校の2軍的チームや学連卒業後4年までの者で構成しているチームはクラブとみなさいという参加規定が特色だ。また優勝チームは来年度はクラブ競技会に出られないというのも新しい考えかたで、どのような成果をあげるか注目されよう。参加は15チーム。

今月号から「地方球信」欄を新設しました。あなたの地方のニュース、あなたのチームの活動を400字以内にまとめて編集部あてお送り下さい。なお、試合記録はこれまでどおり「各地の記録」欄で扱います。

各地の記録

麻生、竜ケ崎一を制す

▼茨城県民体育大会ハンドボール（8月・水戸）

▽高校男子準々決勝
竜ケ崎一 17—9 笠間
水海道一 11—9 勝田工
鉾田一 7—4 土浦工
麻生 21—7 茨城

▽同準決勝
竜ケ崎一 17—8 水海道一
麻生 16—6 鉾田一

△同決勝
麻生 12（7—6 5—3）9 竜ケ崎一

▽高校女子準々決勝
鉾田二 5—3 石岡二
水海道二 24—2 太田一
麻生 17—4 水戸二
八郷 4—2 常北

▽同準決勝
水海道二 13—2 鉾田二
八郷 8—2 麻生

▽同決勝
八郷 5（3—0 2—1）1 水海道二

▽一般男子市対抗決勝
勝田市 17（9—4 8—10）14 土浦市

▽同町村対抗決勝
東海村 13（6—6 7—5）11 新泊村

自衛隊（勝田）が快勝

▼茨城県実業団・クラブ選手権（10月・日本原研体育館）

▽男子1回戦（2試合）
茨苑ク 25—13 自衛隊B

日本ハンドボール協会検定球


新製品！
チェコ型


東京 タチカラ株式会社 大阪

自衛隊A 16−8 日本原子研
▽同準決勝
茨苑ク 19−13 水戸工ＯＢ
自衛隊A 16−5 日立製作所
▽同決勝
自衛隊A 19（9−2 10−5）7 茨苑ク
▽女子オープン
太田二高 8−7 西峰ク

大同製鋼、初優勝飾る

▼第15回愛知県実業団リーグ（10月・名古屋）
▽1部
富士製鉄A 26−14 日本碍子
大同製鋼 41−16 タヨシ産業
大同製鋼 26−8 トヨタ車体
日本碍子 27−19 タヨシ産業
大同製鋼 23−18 富士製鉄B
トヨタ車体 19−14 タヨシ産業
富士製鉄A 21−21 トヨタ車体
日本碍子 23−18 富士製鉄B
大同製鋼 17−16 富士製鉄A
トヨタ車体 26−21 日本碍子
富士製鉄B 32−8 タヨシ産業
大同製鋼 31−9 日本碍子
富士製鉄A 23−14 富士製鉄B

【順位】①大同製鋼 5戦全勝②富士製鉄A 4勝1敗③富士製鉄B 3勝2敗④トヨタ車体2勝3敗⑤日本碍子2勝3敗⑥タヨシ産業5敗

大同製鋼は富士製鉄の9連勝をはばみ初優勝した。

▽1・2部入れ替え戦
プラザー工業（2部）23−6 タヨシ産業（1部）

住友化学、貫録勝ち

▼第24回愛媛県スポーツ祭（10月土居高）
▽男子準々決勝
住友化学菊本 24−6 松山工商
松山商大 24−9 寿電機
愛媛教員 38−16 丸善石油
新居浜工高 34−1 北条体協
▽同準決勝
住友化学菊本 25−15 松山商大
新居浜工高 27−21 愛媛教員
▽同決勝
住友化学菊本 19（12−6 7−4）10 新居浜工高
▽女子1回戦（2試合）
土居高B 11−6 新居浜工
新居浜商高B 3−1 土居高A
▽同準決勝
新居浜商高A 23−2 土居高B
新居浜商高B 6−5 松山商高
▽同決勝
新居浜商高A 11（6−0 5−0）0 新居浜商高B

男女とも生駒勝つ

▼奈良県高校総体ハンドボール（10月・敏傍高）
▽男子準々決勝
奈良B 14−9 十津川B
生駒A 14−10 添上A
添上B 20−14 生駒A
▽同準決勝
東大寺 12−6 奈良B
東大寺 14−11 添上B
生駒A 14−5 奈良B
▽同決勝
生駒A 14（8−3 6−6）9 東大寺
▽女子1回戦（3試合）
生駒 15−3 添上
十津川B 11−1 郡山
十津川A 20−0 奈良文化女短大附属
▽同準決勝
十津川B 4−3 桜井商
生駒 7−4 十津川A
▽同決勝
生駒 16（9−2 7−0）2 十津川B

奈良工高専が優勝

▼奈良県民体育大会ハンドボール（10月・敏傍）
▽男子1回戦
奈良工高専 20−6 榛原
▽同準決勝
敏傍 11−8 正強
奈良工高専 10−8 桜井商高
▽同決勝
奈良工高専 22（9−2 13−3）5 敏傍
▽女子決勝
桜井商 6（5−0 1−1）1 郡山

中学大会記録

▼茨城県民体育大会（水戸）
▽男子準々決勝
玉造 17−16 結城
麻生一 20−9 新治
谷原 14−7 水海道
岩瀬 10−9 麻生
▽同準決勝
岩瀬 7−6 谷原
麻生一 21−12 玉造
▽同決勝
岩瀬 10（5−2 5−4）6 麻生一
▽女子準々決勝
水海道 18−9 岩瀬
結城 24−8 麻生一
水海道西 9−3 波崎一
新治 9−8 神栖
▽同準決勝
水海道 6−3 水海道西
結城 22−1 新治
▽同決勝
結城 8（2−0 6−5）5 水海道

▼広島県中学総体（10月・尾道）
参加校 男子14、女子10
▽男子準決勝
東畑 18−5 修道
二河 19−4 加茂
▽同決勝
東畑 9−7 二河
▽女子決勝
神辺 6−2 鳳

訂正 本誌69号30頁国体地域予選記録・近畿一般男子参考記録のうち奈良クーウルフス（滋賀）は22−17の誤りでした。訂正いたします。

編集後記

・今回は実にいろいろな話題をもりこむことができました。

特に馬場太郎氏の特別寄稿、なかなか読みえのあるものです。連載を続けています「ハンドボールの歩み」のなかでもすでに紹介してありますように、デンマークのハンドボールの歴史なかなか古いものです。ハンドボールの生年月日をいつにするかこれはなかなか難しい問題です。ルールブックが現存していて、それの出された最古の時ということにすればデンマーク確に一番古いものでしょう。ヨーロッパに渡られての研究多くの人に会われての研究ですので一段と実のあるものになっています。ただ私が従来考えていたものとは、一寸違っているところがあります。それは一言で云えば、ドイツの競技が11人制の母体であり、デンマークの競技が7人制の母体になったという考え方です。これも人数グランドなどでそれをどう考えるかによって、かなりかわってきましょうが。（藤本 強）

【おことわり】本誌では常務理事会の議事録を掲載しておりますが、これは主要事項の抜すいで、ニュースとして詳報したものについては省略する場合があります。

また9月28日の臨時常務理事会席上、この抜すいは「公報」ではないことが確認されました。御了承下さい。（編集部）

フジカラー
サービス

カラー写真ならもっときれい！



現像とカラープリントはお近くのカメラ店で
〈フジカラーサービス〉とご指定ください

フジカラーの純正現像

フジカラーN 100
フジカラーR 100
フジカラーシネ 8mm・16mm

トーキー映画（磁性体塗布加工）

フジマグネオストライプ

小型映画フィルムの複製

フジシネコピー

美しいカラープリント

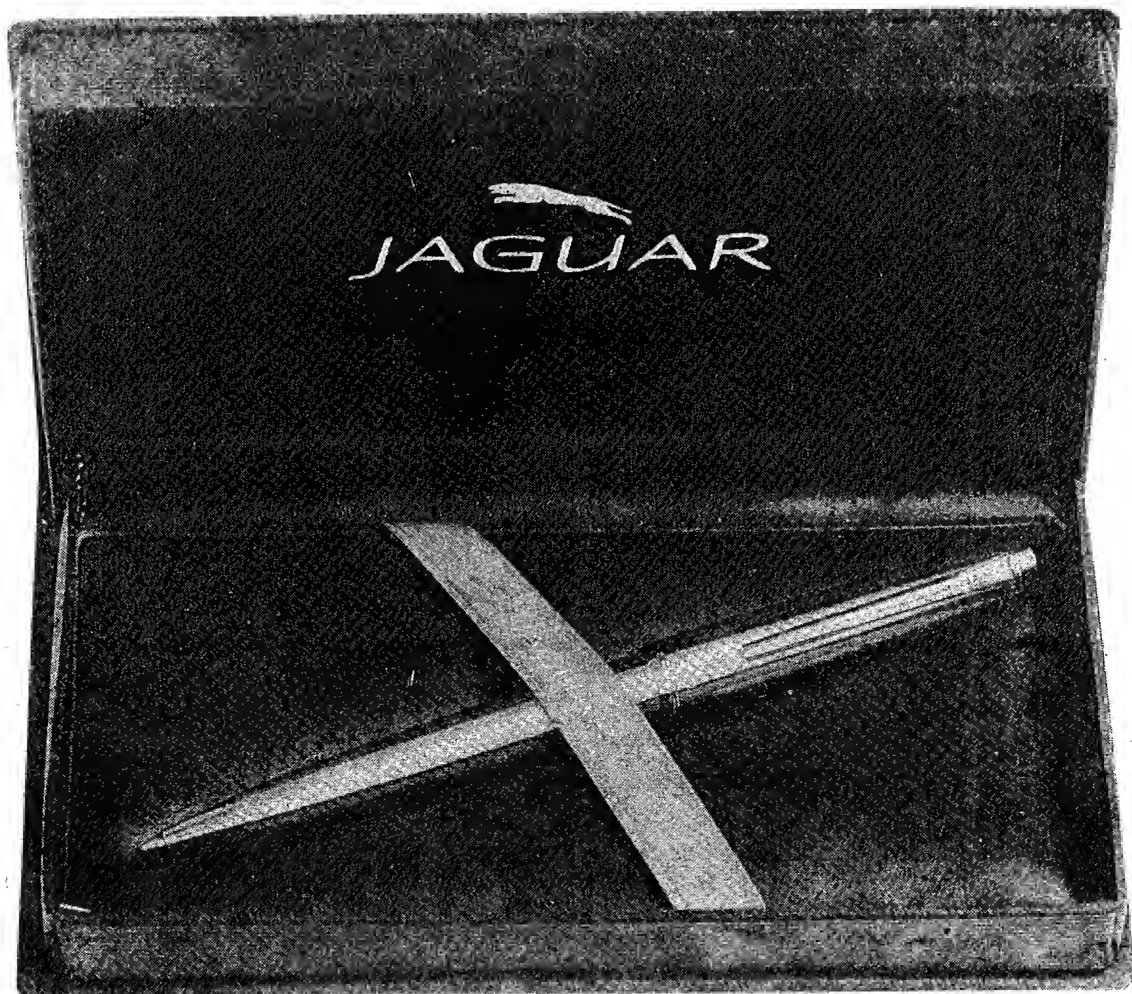
フジネガカラープリント
フジポジカラープリント
フジダイカラープリント
フジ G カラープリント
フジネガカラースライド
フジポジカラースライド

フジカラーの綜合現像所

株式会社 フジカラーサービス

札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第七十号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十四年十月二十五日印刷 昭和四十四年十一月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都　区神南町二五
電話　(467)三二一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円
(年間購読11回・千二百円)



精かんなきみから
精かんな　かれへ
贈りものはジャガー

胸から出す、ノックする、書く………
三菱ボールペン《ジャガー》は、すべてにスキがありません。
スマートなデザイン、軽快なキャップスライド、ムラのない書き味《ジャガー》は、行動的な若いあなたに、ぴったりです

精悍なヤツ——
ジャガー
三菱ボールペン
¥2000・¥1000・¥800・¥500